Pioneer sound.vision.soul

# ホームシアターシステム

# HTP-07

## インターネットによるお客様登録のお願い

**http://www.pioneer.co.jp/support/**

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。
上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

# 取扱説明書

# 安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

**この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。**
**内容をよく理解してから本文をお読みください。**

## 警告

**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

## 注意

**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

## 絵表示の例

**△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。**
**図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。**

**⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。**
**図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。**

**● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。**
**図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。**

## ⚠ 警告

### 異常時の処置

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

### 設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず、重い物をのせてしまうことがあります。

- 放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

- **着脱式の電源コード(インレットタイプ)が付属している場合のご注意:**
  付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

## *使用環境*

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧(交流100ボルト50 Hz/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

## *使用方法*

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

# ⚠ 注意

## *設置*

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

- 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

## 使用方法

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(−)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

## 保守・点検

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

● 電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ(遮断装置)を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

● 機器本体のSTANDBY/ONボタンで電源を切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

## ⚠ 注意

● 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止するためには、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全のため必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

## ⊘ 禁止

● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。

## ❗ 本機の放熱について

● 本機を設置する場合には、壁から５ cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から５ cm以上、背面から５ cm以上、側面から５ cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

# 本機の特徴

## 1. スピーカーラックシステム（B-07）専用ホームシアターシステム

本機はレシーバーサブウーファー、センタースピーカー及びワイヤレススピーカーで構成された、スピーカーラックシステム（B-07）専用ホームシアターシステムです。専用オプションシステムのため、B-07のフロントスピーカーを使用し、すっきりキレイに省スペースで5.1 chサラウンドを楽しめます。

## 2. 最適なサラウンド環境に整える、自動音場補正システム「MCACC」

本機は自動音場補正システム「MCACC(Multi-Channel Acoustic Calibration System)」を搭載し、各スピーカーの音量、距離、音質をお部屋に最適な状態に設定します。最短2分程度のわずかな時間で、複雑で難しいとされるサラウンド環境の設定が簡単に行えます。

## 3. MP3などの圧縮音声を、高音質で再生する「サウンドレトリバー」

本機に搭載された「サウンドレトリバー」機能で、WMA※1、MP3、MPEG-4　AACなどのステレオ音声に対し、圧縮・収録時に失われた音楽の抑揚感やきめ細かさを独自のアルゴリズムによって復元し、高音質で再生します。

## 4. 5.1チャンネルのレシーバー機能搭載サブウーファー

本機はFM/AMラジオはもちろんのこと、ドルビー※2デジタル、ドルビープロロジックII、DTS※3、MPEG-2 AACなどのデコーダーを搭載しており、本格的な臨場感でサラウンドを楽しむことができます。また、さまざまな臨場感を体感できるアドバンスドサラウンドモードも搭載しており、お好きな音場で楽しむことができます。

## 5. ワイヤレススピーカーで簡単設置

リアスピーカーは、ワイヤレスで置き場所に悩むことなく、簡単に設置することができます。
また「2.4 GHzデジタル伝送方式」により、CD並の高音質でのワイヤレス伝送を実現しています。
コンパクトなワンボディでありながら、『ダイレクトディフューズ※4』音場技術を搭載することで、よりリアルなサラウンドを実現しました。

## 6. 環境にやさしい設計製品

5.1 chレシーバー機能搭載サブウーファー部は、スタンバイ中の消費電力を0.2 W以下に抑え、環境に配慮した設計をしています。

※1 WMA(Windows Media® Audio)は、Microsoft®社がWindows® Millennium Edition以降のOSに標準搭載している高音質な音楽圧縮フォーマットです。
Microsoft、Windows Millennium Edition及びWindows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

※2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby, ドルビー ,Pro Logic, ダブルD記号及びAACロゴはドルビーラボラトリーズの商標です。

※3 DTS及びDTS Digital Surroundは、米国Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。
米国Digital Theater Systems, Inc.の実施権に基づき製造されています。

※4『ダイレクトディフューズ』とは、スピーカーユニットを最適な角度にレイアウトすることで音を天井や壁に反射させ、直接音だけでなく間接音を効果的に利用した臨場感あふれる音場を作り出す当社独自の技術です。

# もくじ

## 1　はじめに



## 2　接続する



## 3　各部の名称



## 4　準備する



## 5　サラウンド再生



## 6　ラジオを聞く



## 7　他機器の接続



## 8　いろいろな機能を使う



## 9　その他

# 付属品の確認

• 保証書は、HTP-07の外箱に貼ってあります。

## [レシーバーサブウーファー部]

● リモコン ×1

● AA/R6 単３形乾電池（動作確認用）×２

● ディスプレイユニット×１

● ディスプレイケーブル×１

● 電源コード×１

● AMループアンテナ×１（図は組み立てた状態です）

● FM 簡易アンテナ×１

● MCACCセットアップ用マイク×１

● 光デジタルケーブル×２ (44ページ)

● 同軸デジタルケーブル×１ (44ページ)

● SR+ケーブル×１

● 取扱説明書

## [センタースピーカー部]

● センタースピーカー ×１

● 滑り止めパッド（大）×４

● 滑り止めパッド（小）×４

● スピーカーコード

４ｍ（赤色のフロントスピーカー右用）×１

４ｍ（白色のフロントスピーカー左用）×１

４ｍ（緑色のセンタースピーカー用）×１

## [ワイヤレススピーカー部]

● ワイヤレススピーカー ×１

● 電源コード ×１

● トランスミッター ×１

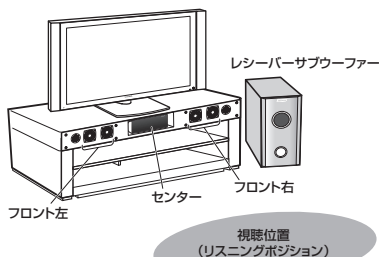
● ACアダプター×１

● オーディオコード ×１

● コーションラベル ×１

## スピーカーを設置する

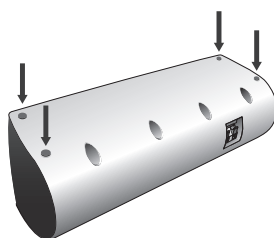
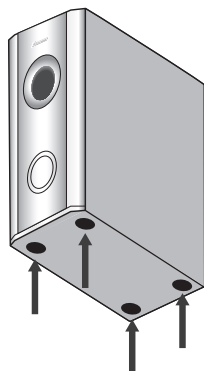
サラウンド効果を最大限に引き出すため、下の図のようにワイヤレススピーカーを設置してください。ワイヤレススピーカーを設置するスペースが視聴位置の後方に確保できないときは、ワイヤレススピーカーを視聴位置の左側か右側に設置することができます。詳しくは26ページ「ワイヤレススピーカーのいろいろな設置」をご覧ください。

- センタースピーカーはスピーカーラックシステム（B-07）のセンタースピーカー収納部に設置してください。（16ページ）
- ワイヤレススピーカーを視聴位置（リスニングポジション）から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果が不十分なときは「スピーカー出力レベルを設定する」（36ページ）をご覧になりSR（サラウンド右）、SL（サラウンド左）チャンネルのレベルを調整してください。とくにワイヤレススピーカーを床に設置しているときは、チャンネルレベルの調整が効果的です。
- ワイヤレススピーカーは視聴位置（リスニングポジション）の真後ろ（中央）か左右の棚や置き台、または床に設置してください。また、ワイヤレススピーカーは耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さより上にワイヤレススピーカーを設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。
- 本機のセンタースピーカーはテレビとの近接使用が可能なスピーカーですが、まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15～30分後再びスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたらテレビの位置を変えてみてください。
- レシーバーサブウーファーとワイヤレススピーカーは、テレビとの近接使用ができませんのでテレビから離してご使用ください。また、磁気に影響のある製品や機器（フロッピーディスクやビデオ、カセットテープなど）からも離してお使いください。近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- センタースピーカー、ワイヤレススピーカー、レシーバーサブウーファーを壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

### メ モ

▼ 使用中に電波の状態によって、音がとぎれたり出なくなったりすることがありますが故障ではありません。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置や方向を変えてみてください。
▼ トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離は約10 mまで使用可能です。この距離は使用環境により異なりますので、10 mを保証するものではありません。
▼ トランスミッターとワイヤレススピーカーが近すぎると受信状態が不安定になる場合があります。このような場合には、トランスミッターとワイヤレススピーカーを1 m以上離してお使いください。
▼ トランスミッターとワイヤレススピーカーの間に障害物（金属製のドアやコンクリート壁、アルミ箔入りの断熱材など）があると、電波を遮ってしまい音が出なくなるときがあります。その場合はトランスミッターとワイヤレススピーカーを互いに見通しの良い場所に設置してください。

# スピーカーに滑り止めパッドを貼る

## 1. 各スピーカーの底面の角４カ所に滑り止めパッドを貼り付ける

レシーバーサブウーファーには滑り止めパッド（大）を４カ所、センタースピーカーには滑り止めパッド（小）を４カ所貼り付けます。

# 本機を接続する

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。
また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

**レシーバーサブウーファー**

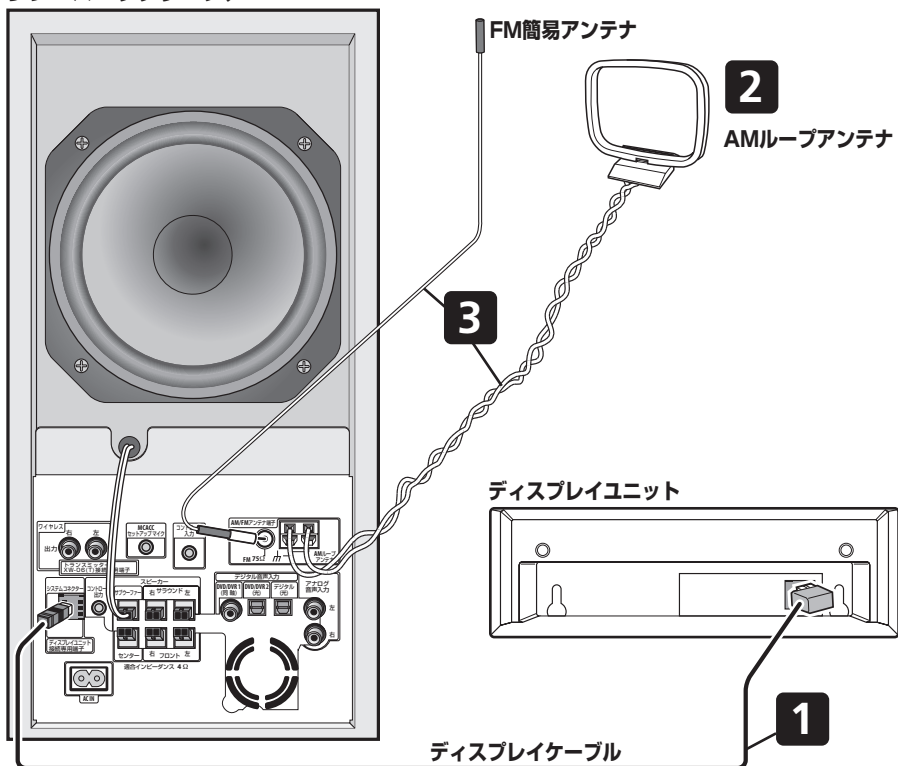
**FM簡易アンテナ**

**2**

**AMループアンテナ**

**3**

**ディスプレイユニット**

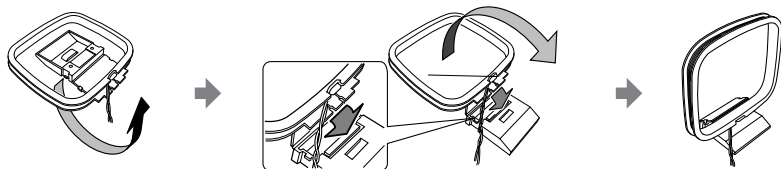
**1**

**ディスプレイケーブル**

## 1. レシーバーサブウーファーとディスプレイユニットを接続する

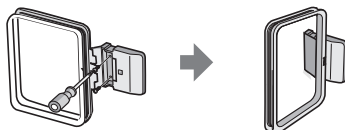
ディスプレイケーブルのＬ形プラグをディスプレイユニットと接続します。
次に､ディスプレイケーブルのもう片方をレシーバーサブウーファーの**システムコネクター端子（ ディスプレイユニット接続専用端子）**に接続します。

## 2. AM ループアンテナを組み立てる

AMループアンテナのコードは、ねじれている部分や台に巻き付いて固定されている部分まで、ほどかないで組み立てます。

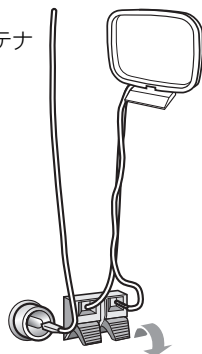
① 台を外側に出します。　② 突起部を溝にはめます。　③ 完成

**壁に取り付けるには....**

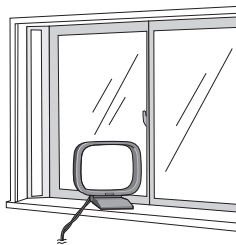
市販のネジや画びょうなどを使って、壁に取り付けてから組み立てます。

①　②

## 3. AM ループアンテナと FM 簡易アンテナを接続する

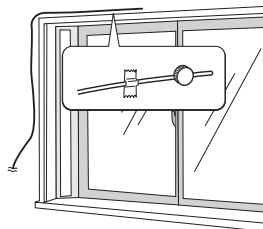
① AM ループアンテナ接続端子のツメを押しながら、AM ループアンテナのコードを端子に差し込みます。
どちらをアース側の端子（⏚）につないでもかまいません。ただし、受信している状態で雑音が多いときは、接続を逆にすると改善されることがあります。
コードを差し込んだらツメから指を離します。

② FM 簡易アンテナは、中央のピンに差し込んでください。
FM簡易アンテナは、たらしておいたり丸めたままにしないで、最も良い受信状態が得られるように、ピンと張ってください。

- ▼ AMアンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。
- ▼ アンテナは本機やディスプレイユニット、または各接続ケーブルから離した場所に置いてください。
- ▼ アンテナはテレビ（プラズマディスプレイなど）から離して置いてください。ノイズを受けて雑音が出ることがあります。

### AM ループアンテナ：

- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機やケーブル類から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

- できるだけ窓の近くに置くなど、置く位置や向きを変えて受信しやすい状態を探してください。

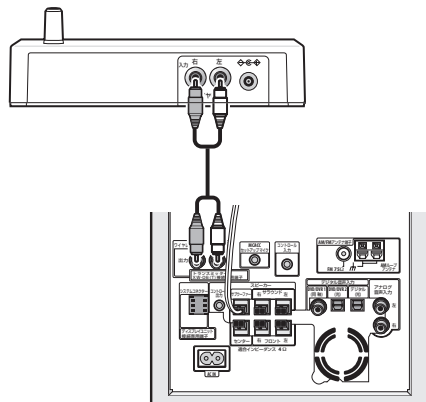
### FM 簡易アンテナ：

- 付属のFM簡易アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで貼り付けます。

- 付属のFM 簡易アンテナは、FM 放送を手軽に受信するためのものです。より良い受信のためには、市販の屋外アンテナの使用をお勧めします。(48 ページ)

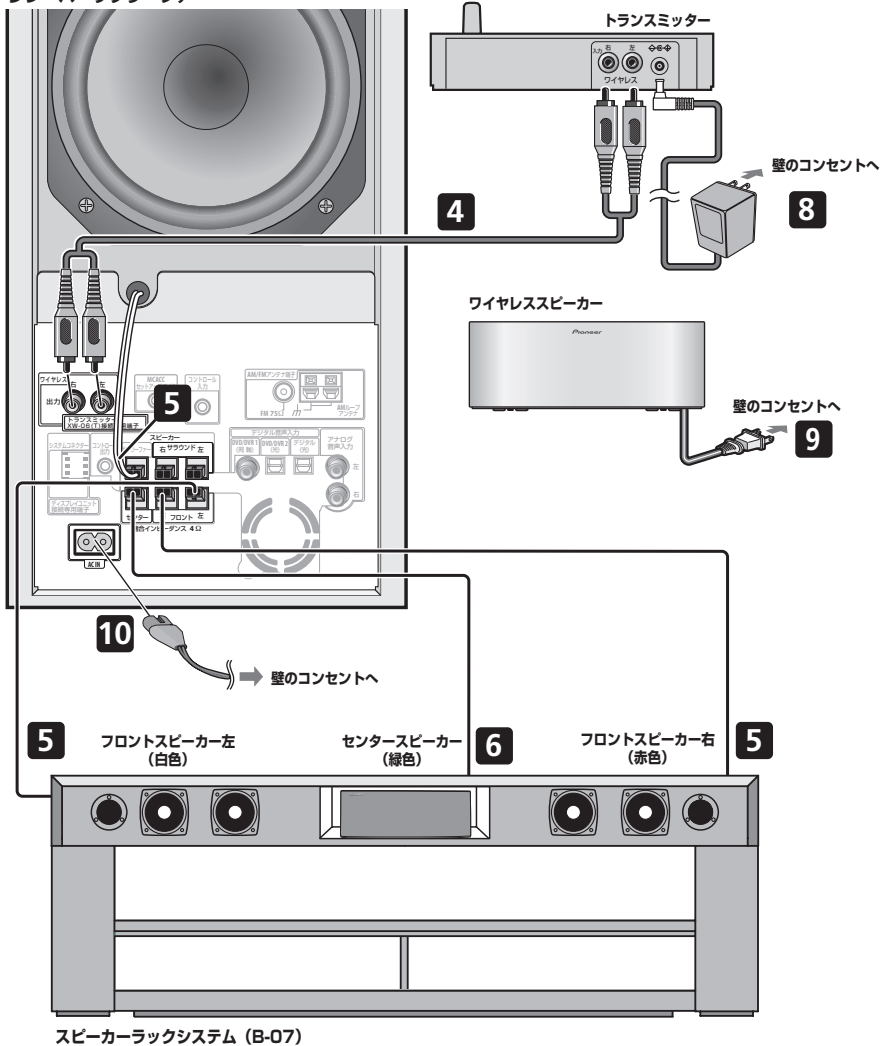
**メ モ**

▼ 付属のアンテナでよく聞こえないときは、40 ページの「FM 放送の雑音を減らす」や「AM 放送の雑音を減らす」を参照して操作するか、48 ページを参照して外部アンテナを接続します。

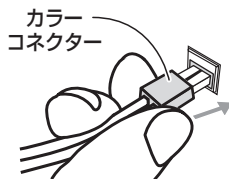
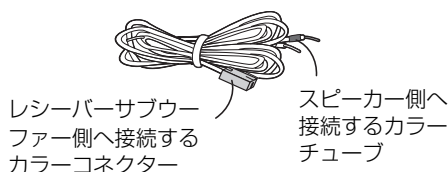
## 4. トランスミッターと接続する

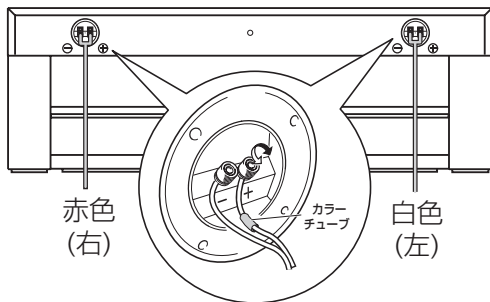
付属のオーディオコード（赤と白のプラグ）を レシーバーサブウーファーのワイヤレス出力端子に接続します。次に、オーディオコード（赤と白のプラグ）の反対側をトランスミッターの入力端子(ワイヤレス入力)に接続します。

**メ モ**

▼ 本機のワイヤレス出力端子は、専用端子になっています。トランスミッターの入力端子以外には接続しないでください。

レシーバーサブウーファー
トランスミッター
壁のコンセントへ
4
8
ワイヤレススピーカー
壁のコンセントへ
9
5
10
壁のコンセントへ
5
フロントスピーカー左
（白色）
センタースピーカー
（緑色）
6
フロントスピーカー右
（赤色）
5
スピーカーラックシステム（B-07）

# 5. スピーカーラックシステム(B-07)を接続する

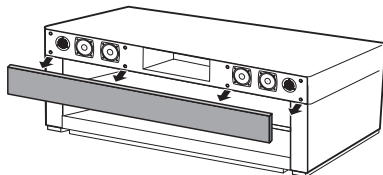
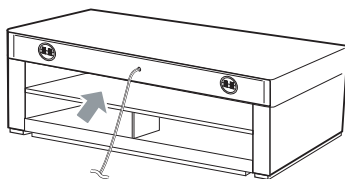
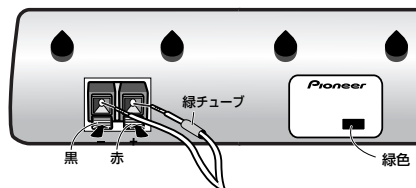
レシーバーサブウーファーのスピーカー端子のフロント（右）に、スピーカーコードの赤色のコネクターを差し込み、フロント（左）にはスピーカーコードの白色のコネクターを差し込みます。
同様にして、レシーバーサブウーファーから出ている紫色のコネクターも接続します。

**スピーカーコード**

① カラーコネクターが付いていない方の先端の被覆は、ねじりながら引き抜きます。

② スピーカーの端子については、ネジを緩め、コードの先端を穴に差し込んでからネジを締めます。
スピーカーコードのカラーチューブのある方を端子の ⊕ 側(赤)に、カラーチューブのない方を ⊖ 側(黒)に接続します。

# 6. センタースピーカー(S-B06C)を接続する

センタースピーカーをラックの中に入れて使用します。スピーカーラックシステムB-07に付属の取扱説明書も、あわせてご覧ください。

① レシーバーサブウーファーのスピーカー端子のセンターに、スピーカーコードの緑色のコネクターを差し込みます。

② グリルネットを取り外します。

③ 後面中央の穴からスピーカーコードを 30 cm 程度差し込みます。

④ スピーカーコードを前面から引き出して、センタースピーカーに接続します。

スピーカーコードのカラーチューブのある方を端子の⊕側(赤)に、カラーチューブのない方を⊖側(黒)に接続します。

⑤ センタースピーカーをセンタースピーカー収納部に置き、グリルネットを取り付けます。
センタースピーカーは、センタースピーカー収納部の手前（グリルネット側）に設置してください。

### メ モ

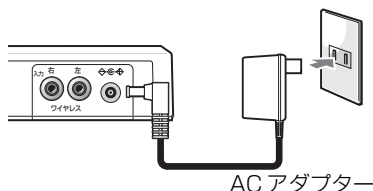
▼ 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
▼ 付属のセンタースピーカー、およびスピーカーラックシステム以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
▼ 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
▼ コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりすると、アンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
▼ スピーカーシステム極性(⊕、⊖)を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

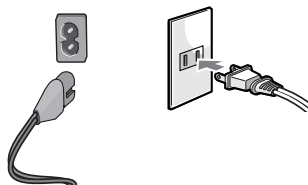
## 7. DVD プレーヤーや DVD レコーダーなどの機器を接続する

DVD プレーヤーやDVD レコーダーの接続については、44 ページの「他機器の接続」を参照して接続してください。また、各機器の電源を入れる前に映像信号の接続(DVD プレーヤーとテレビとの接続など)も行ってください。接続については、それぞれの機器の取扱説明書を参照してください。

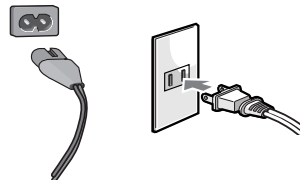
## 8. AC アダプターをトランスミッターと壁のコンセントに差し込む

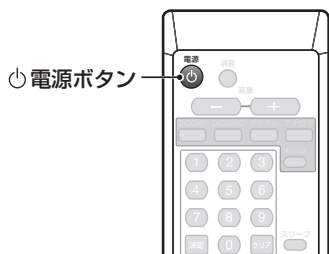
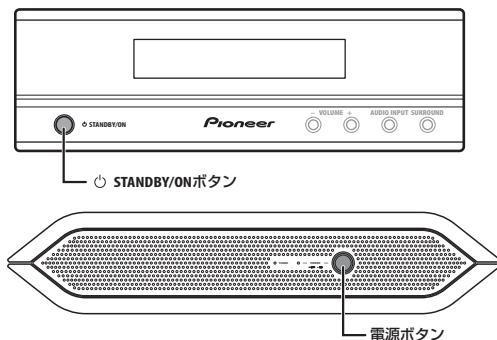
AC アダプターをトランスミッターの DC 電源入力端子に接続してから壁のコンセントへ接続します。

AC アダプター

## 9. ワイヤレススピーカーの電源コードをワイヤレススピーカーと壁のコンセントに差し込む

電源コードをワイヤレススピーカーの AC インレット(AC IN)に差し込み、電源コードのプラグ部を壁のコンセントに接続します。

## 10. 電源コードをレシーバーサブウーファーと壁のコンセントに差し込む

電源コードを本体の AC インレット（AC IN）に差し込み、電源コードのプラグ部を壁のコンセントに接続します。
はじめて電源コードをコンセントにつないだ時はデモモードになります。デモモードを表示したくない場合は、22ページ「デモ表示を解除する」をご覧ください。

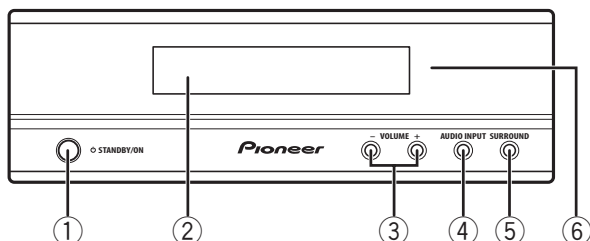
AC インレット

# 電源を入れる

ディスプレイユニットの ⏻ STANDBY/ON ボタンか、リモコンの ⏻ 電源ボタンを押して電源を ON にします。なお、リモコンは20 ページを参照して、あらかじめ電池を入れておいてください。
最後に、ワイヤレススピーカーの電源ボタンを押して電源を ON にします。

### メ モ

▼ 本システムを使用しないときは、ワイヤレススピーカーの電源はオフにしておいてください。

## サラウンドの自動設定（MCACC）をする

23 ページ「サラウンドの自動設定（MCACC）」をご覧ください。
マイクを使用した自動設定で、高精度なサラウンド設定を簡単に短い時間で行うことができます。

## ディスプレイユニット

① ⏻ STANDBY/ONボタン
電源をオン/オフ(スタンバイモード)します。

② 表示窓

③ VOLUMEボタン
音量を調節します。

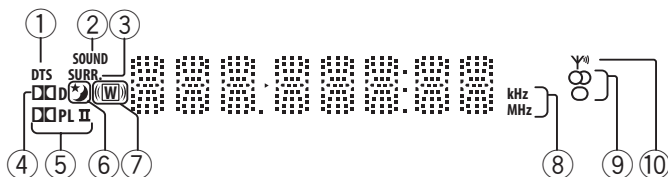
④ AUDIO INPUTボタン
入力機器を切り換えます。

⑤ SURROUNDボタン
サラウンドモードを切り換えます。

⑥ リモコン受光部
約7 m左右30˚以内の距離から、ここにリモコンを向けて操作します。

### メ モ

▼ 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

## 表示部

① DTS信号を再生しているときに点灯します。

② サウンドレトリバー機能を使用しているときに点灯します。（32ページ）

③ アドバンスドサラウンドモードを選択しているときに点灯します。（31ページ）

④ ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。

⑤ ドルビープロロジック II 処理が行われているときに点灯します。（29ページ）

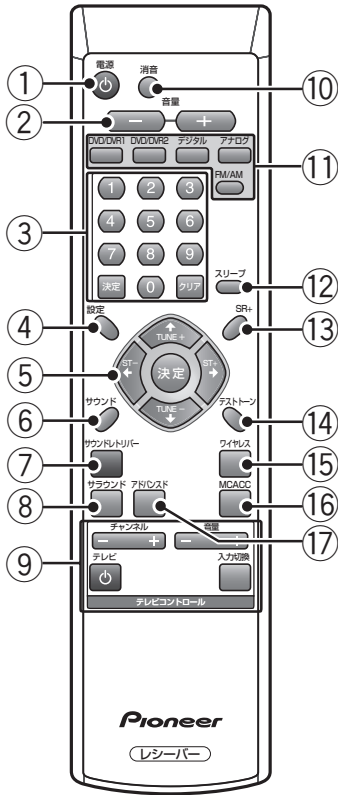
⑥ スリープタイマー設定時に点灯します。（51ページ）

⑦ ワイヤレスモードが、NORMAL、WIDE、LEFT、RIGHTのとき点灯、STEREOのとき点滅します。

⑧ AM放送局の周波数が表示されているときに**kHz**が点灯します。（39ページ）
FM放送局の周波数が表示されているときに**MHz**が点灯します。（39ページ）

⑨ FM放送の受信設定をモノラルに設定すると○が点灯します。（40ページ）
FM放送でステレオ受信していると、○○が点灯します。

⑩ FM/AM放送受信時に点灯します。

# リモコン

① ⏻ 電源ボタン（22 ページ）

② 音量ボタン

③ 数字/決定/クリアボタン

④ 設定ボタン

各種設定を行います。

⑤ ⇧ ⇩⇦ ⇨ /決定ボタン

項目の選択や変更や設定画面で、カーソルを上下左右に移動し、決定ボタンで決定するときに使用します。

TUNE + / −ボタン（39 ページ）

ラジオの放送局を受信するときに使用します。

ST + / −ボタン（42 ページ）

ラジオでステーション(記憶番号)を選ぶときに使用します。

⑥ サウンドボタン（32ページ）

各種音質調整を行うときに使用します。

⑦ サウンドレトリバーボタン（32ページ）

サウンドレトリバー機能の切り換えを行うときに使用します。

⑧ サラウンドボタン（30ページ）

⑨ テレビコントロール（20ページ）

⏻テレビボタン

テレビの電源を入れます。

テレビ入力切換ボタン

テレビのライン入力を切り換えます。

テレビチャンネルボタン

テレビのチャンネルを変更します。

テレビ音量ボタン

テレビの音量を調整します。

⑩ 消音ボタン

音を一時的に消す（ミュートする）ときに押します。もう一度押すとミュートは解除され、消音する前の音量に戻ります。

⑪ DVD/DVR1ボタン

入力をDVD/DVR1同軸入力端子に接続した機器に切り換えます。

DVD/DVR2ボタン

入力をDVD/DVR2の光入力端子に接続した機器に切り換えます。

デジタルボタン

入力をデジタル光端子に接続した機器に切り換えます。

アナログボタン

入力をアナログ音声入力端子に接続した機器に切り換えます。

FM/AMボタン

ラジオを聞いたり、FM局とAM局を切り換えます。

⑫ スリープボタン（51ページ）

⑬ SR+ボタン（46ページ）
接続したプラズマディスプレイと連動させて各種システムの設定を行います。

⑭ テストトーンボタン（37ページ）

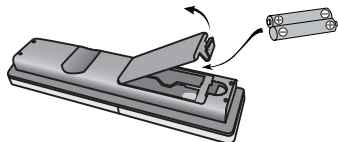
⑮ ワイヤレスボタン（28ページ）

⑯ MCACCボタン（23ページ）
サラウンドの自動設定を行うときに使用します。

⑰ アドバンスドボタン（31ページ）

## リモコンに電池を入れる

① 矢印の方向に、裏ブタを開く

② ケース内に表記されている極性に合わせて、乾電池を入れる

③ 裏ブタを閉める

◆ 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
◆ 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
◆ 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
◆ 長い間（1か月以上）使用しないときは電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
◆ 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

## テレビコントロール

お使いのテレビのメーカーを本機のリモコンに設定して、お使いのテレビを操作することができます。

**1.** クリア

**クリアボタンを押しながら、3桁のメーカーコード(下記)を数字ボタンで入力する**

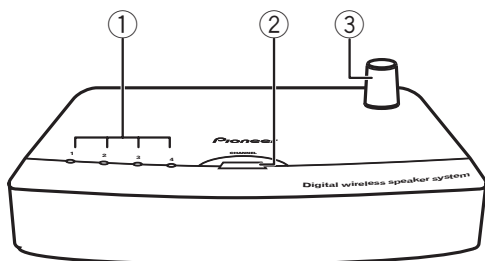
**2.** **テレビが操作できるか確認する**

1つのメーカーに複数のコードがあるときは、操作できるまで順にコードを設定してください。

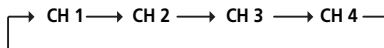
## メーカーコードリスト

| | |
|---|---|
| パイオニア | **600**(お買い上げ時の設定), **631**, **632**, **607**, **636**, **642**, **651** |
| アイワ | **660** |
| NEC | **659** |
| サンヨー | **635**, **645**, **648**, **621**, **614** |
| シャープ | **602**, **619**, **627** |
| ソニー | **604** |
| 東芝 | **605**, **602**, **626**, **621**, **653** |
| 日立 | **631**, **633**, **634**, **636**, **642**, **643**, **654**, **606**, **610**, **624**, **625**, **618** |
| ビクター | **613** |
| 富士通 | **648**, **649** |
| FUNAI | **640**, **646**, **658** |
| 松下 | **631**, **607**, **608**, **642**, **622** |
| 三菱 | **609**, **610**, **602**, **621**, **631** |

その他のメーカーのコードについては、52ページを参照してください。

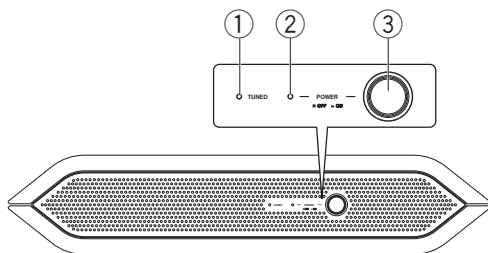
## トランスミッター

① **チャンネルインジケーター**
②の**チャンネル選択ボタン**によって選択された周波数チャンネルが点灯します。

② **チャンネル選択ボタン**
ワイヤレススピーカーへ送信する信号を4つの周波数チャンネルから選択します。ワイヤレススピーカーの受信状態が良くないときは、周波数チャンネルを変えることで受信状態が良くなることがあります。押すたびに以下のように切り換わります。

→ CH 1 → CH 2 → CH 3 → CH 4 →(CH 1に戻る)

③ **アンテナ**
ワイヤレススピーカーへ音声信号を送信します。

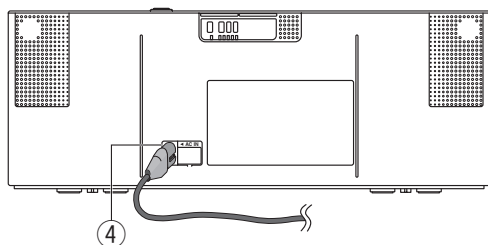
## ワイヤレススピーカー

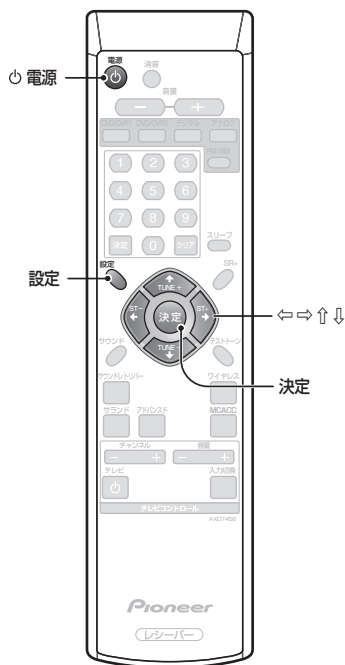
### 上面部

### 背面部

① **TUNEDインジケーター**
トランスミッターからの信号を受信しているときに点灯します。

② **POWERインジケーター**
ワイヤレススピーカーの電源をオンにしているときに点灯します。

③ **電源ボタン**
ワイヤレススピーカーの電源をオン/オフします。

④ **ACインレット**
付属の電源コードを差し込みます。

### メ モ

▼ ワイヤレススピーカーのアンテナは内蔵されています。

## デモ表示を解除する

電源コードをコンセントに差し込んだときなど、表示部にいろいろな表示を自動的に行うことを、デモ表示といいます。

**1.** 電源

**電源がオンのときは、⏻電源ボタンを押して電源をオフにする**

**2.** 設定

**設定ボタンを押す**

**3.**

**⇦ ⇨ で "DEMO" にしてから決定ボタンを押す**

| DEMO |
|---|

**4.**

**⇧ ⇩で"DEMO OFF"にしてから決定ボタンを押す**

| DEMO OFF |
|---|

電源がオフになりデモ表示が解除されます。再びデモ表示を設定する場合は、"DEMO ON" にします。

### メ モ

- ▼ デモ表示を解除した場合でも、電源コードを抜いたり停電した状態が長時間続くと、再度電源コードをコンセントに差したり通電が再開したときに、デモ表示をする場合があります。
- ▼ デモ表示中、⏻電源ボタンを押すと、電源をオンにすることができます。

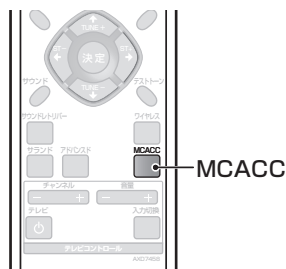
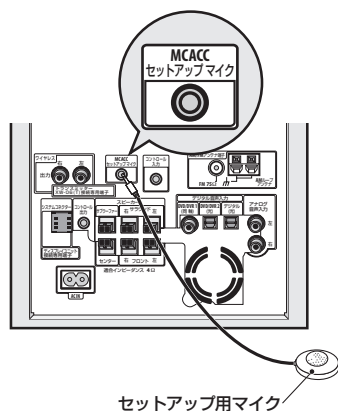
## サラウンドの自動設定（MCACC）

本機のMCACC設定では、従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。
スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し､解析します。すべての測定／解析にかかる時間は、２分～４分程度です。

### 注 意

◆ 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます｡近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。
◆ 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
◆ 付属のマイクを TV モニター近くにおいてセットアップを行わないでください。

### メ モ

▼ 測定中は静かにしてください。
▼ スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
▼ 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
▼ 測定を中断した場合は､それまでの測定内容は確定されません。
▼ ワイヤレスモードがステレオに設定されているときはサラウンドの自動設定を行うことはできません。
▼ ワイヤレスモードがオフに設定されているときはサラウンドの自動設定を行うことはできません。オフ、ステレオ以外のモードを選択するか、市販のサラウンドスピーカーをサラウンド（左、右）端子に接続してください（27ページ）。
▼ サラウンドの自動設定（MCACC）を行うと、マニュアルで微調整した以下の内容もすべてリセットされます。
　・各スピーカーまでの距離（38 ページ）
　・スピーカー出力レベル（36～37ページ）

### 1. セットアップ用マイクを接続する

マイクはリスニングポジション（耳の位置）に三脚や台などを使って水平になるように設置します。

### 2. ⏻電源ボタンを押して電源をオンにする

電源

4
準備する

## 3. MCACC ボタンを押す

SETUP

自動的に音量が上がり、自動設定が始まります。
「PLEASE WAIT」とスクロール表示されテストトーンが出力されます。
「ANALYZE」⇔「NOISE」
：部屋の騒音をチェック中
「ANALYZE」⇔「MIC」
：マイクの接続をチェック中
「ANALYZE」⇔「SPEAKER」
：すべてのスピーカーの接続をチェック中
「ANALYZE」⇔「DISTANCE」
：スピーカーまでの適正距離を解析中
「ANALYZE」⇔「CH. LEVEL」
：各 ch の出力バランスを補正中
「ANALYZE」⇔「EQ」
：出力音声の音色を統一

## 4. ディスプレイに「COMPLETE」と表示されたら自動設定は終了です

MCACCボタンを押す前の音量に戻り、アコースティックEQが自動的にオンになります。アコースティックEQのON/OFFについては34ページをご覧ください。

## メモ

- ▼ MCACC 設定後はセットアップ用マイクを本体から抜いてください。
- ▼「COMPLETE」と表示されないまま自動設定が中断されたときは、スピーカー、マイクの接続を確認し、もう一度はじめから自動設定をやり直してください。
- ▼ 操作が禁止されているときに **MCACC ボタン**を押すと、警告メッセージが点滅します。(57 ページ)
- ▼ 手順３の自動設定中に以下のエラーメッセージが表示されることがあります。そのときは「原因／対策」をご覧ください。

| エラー表示 | 原因／対策 |
|---|---|
| NOISY ⬇ RETRY | 部屋の騒音レベルが大きい。<br>静かにしてから**決定ボタン**を押します。 |
| ERR MIC ⬇ RETRY | セットアップ用マイクが接続されていません。<br>セットアップ用マイクを接続してから**決定ボタン**を押します。 |
| ERR SP ⬇ RETRY | 接続されていないスピーカーがあります。<br>すべてのスピーカーを接続、配置してから**決定ボタン**を押します。 |

エラー表示が出て、「原因／対策」の項目を実行しても正しく終了しないときは、MCACC ボタンを押して自動設定を中断したあと、本機の電源をオフにし接続をもう一度確認してから手順２より操作してください。

本機で最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためのステップは以下のとおりです。

## 音源と音声出力について

### 音源

CDやDVDに収録されている音声、ラジオの音声、または外部入力端子に接続した機器の音声を音源といいます。音源には、ステレオ音声とマルチチャンネル音声があります。

- **ステレオ音声**
  右と左の2チャンネルが収録された音声です。主にCDやラジオ放送などで使われています。右と左に同じ音声が収録されているときはモノラル音声といいます。
- **マルチチャンネル音声**
  ステレオ音声より多くのチャンネルが収録された音声です。音声収録方式にはドルビーデジタル、DTSがあります。主にDVDビデオなどで使われています。

### 音声出力

スピーカーから出力する音声です。本機には2つの音声出力があります。

**2.1ch (ステレオ音声出力)**

フロントスピーカー(右/左の2チャンネル)とサブウーファー(低音専用なので0.1チャンネルと呼ばれています)から音声を出力します。センタースピーカーからは音声を出力しません。

**5.1ch (サラウンド音声出力)**

フロントスピーカー(右/左の2チャンネル)、センタースピーカー(1チャンネル)、およびサラウンドスピーカー(右/左の2チャンネル)の合計5チャンネルと、サブウーファー(0.1チャンネル)から音声を出力します※。音源がステレオ音声やモノラル音声でも、センターおよびサラウンドの音声を作って出力できます。

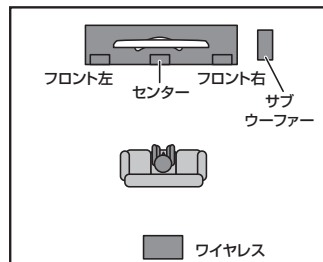
※音源によっては、サラウンドスピーカーから音声が出力されないことがあります。また、センタースピーカーからのみ音声が出力されることがあります。

## ワイヤレススピーカーのいろいろな設置

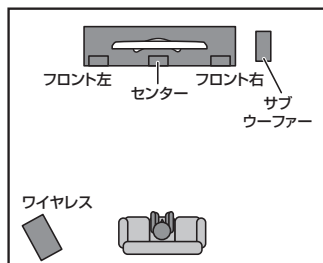
ワイヤレススピーカーはリスニングポジション（視聴位置）の真後ろ（中央）、左右の棚、置き台、または床に設置してください。また耳の高さよりも下に設置することをお勧めします。耳の高さより上に設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されないことがあります。スピーカーを移動したときは、サラウンドの自動設定（MCACC）（23ページ）を行ってください。

### 視聴位置の後ろに設置する

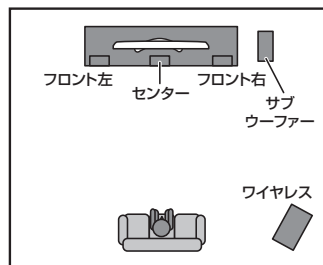
最も サラウンド効果の高い設置方法です。

- •**ワイヤレスモード**：「**WIDE**」または「**NORMAL**」
- •**リスニングモード**：「**サラウンド**」または「**アドバンスドサラウンド**」の中からお好きなモードが選べます。

## 視聴位置の左側に設置する

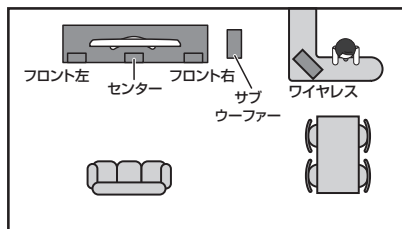
左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

- **ワイヤレスモード：**「LEFT」
- **リスニングモード：**「**サラウンド**」または「**アドバンスド サラウンド**」の中からお好きなモードが選べます。

## 視聴位置の右側に設置する

左右の音場バランスを保ちつつ、広がり感を与えます。

- **ワイヤレスモード：**「RIGHT」
- **リスニングモード：**「**サラウンド**」または「**アドバンスド サラウンド**」の中からお好きなモードが選べます。

## ダイニングなどで使う

ワイヤレススピーカーをダイニングなどに持ち運び、ステレオ音声をお楽しみいただくことができます。
このときはワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。

- **ワイヤレスモード：**「STEREO」
- **リスニングモード：**選択することができません。

## 市販のサラウンドスピーカーを使う

本機は市販のサラウンドスピーカーを接続することもできます。
この場合はワイヤレスモードを「**OFF**」にしてください。リスニングモードは「**サラウンド**」または「**アドバンスド**」の中からお好きなモードが選べます。インピーダンスが4 Ω以上、最大入力が100 W（JEITA）以上のスピーカーをお使いください。また、専用のスピーカーケーブル（パイオニア部品番号：SDS1176（サラウンド左用青色）、SDS1177（サラウンド右用灰色））が必要となります。詳しくはパイオニア部品受注センターへご連絡ください（裏表紙参照）。

- 別売りのワイヤレススピーカースタンド(型番 CP-F500W)があります。詳しくはカタログをご覧ください。
- ワイヤレススピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。サラウンド効果の不十分なときは「スピーカー出力レベルを設定する」（36ページ）を ご覧になり SR(サラウンド右)、SL(サラウンド左)チャンネルのレベルを調整してください。特にワイヤレススピーカーを床に設置しているときは、チャンネルレベルの調整が効果的です。

# ワイヤレスモードを切り換える

## サラウンドスピーカーとして使う

**1.** **ワイヤレスボタンを押して、いずれかのモードを選択する**

- ノーマルサラウンド

NORMAL

- ワイドサラウンド(お買い上げ時の設定)

WIDE

- 左サイドサラウンド

LEFT

- 右サイドサラウンド

RIGHT

表示部に「(W)」インジケーターが点灯します。

## ステレオスピーカーとして使う

**1.** **ワイヤレスボタンを押して、「STEREO」を選択する**

ワイヤレス

- ステレオ

STEREO

表示部に「(W)」インジケーターが点滅します。
ワイヤレススピーカー以外のスピーカーからは音が出ません。

### メ モ

▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使うときは、サラウンド機能のいくつかが制限されることがあります。(57ページ)

## 市販のサラウンドスピーカーを使う

**1.** **ワイヤレスボタンを押して、「OFF」を選択する**

ワイヤレス

- オフ

OFF

表示部の「(W)」インジケーターが消灯します。
ワイヤレススピーカーからは音が出ません。

### Q&A

Q ：**ワイヤレススピーカーやセンタースピーカーから音が出ない！または、音が小さくて物足りない！**

→ **サラウンドボタン、アドバンスドボタン**を押して、各モードをお試しください。
→ **設定ボタン**で、各スピーカーからのチャンネルレベルを調整することができます。(36 ページ)
→ ワイヤレスモードを「NORMAL」、「WIDE」、「LEFT」、「RIGHT」のいずれかに切り換えてください。
→ ワイヤレススピーカーの「TUNED」インジケーターは点灯していますか？消灯している場合は、トランスミッターの位置を移動させるか、チャンネルを切り換えてみてください。

# サラウンド再生を楽しむ（リスニングモードを選択する）

サラウンド再生は、**サラウンド**/**アドバンスドサラウンド** の中からひとつ選択することができます。ただし、88.2 kHz/96 kHz リニア PCM 信号を再生しているときは、STEREO(ステレオ)に固定され、切り換えることができません。

**サラウンドモード：**
ドルビーデジタルやDTSなどの標準的なデコードを行うほか、ステレオダウンミックスモード、入力ソースに記録されているチャンネル数に合わせて自動でモードを切り換えるオートモードがあります。ステレオソースのときはドルビープロロジック II モードも選べます。

**アドバンスドサラウンドモード：**
映画や音楽などソフトのジャンルに合った音響効果で楽しめるパイオニアオリジナルのサラウンドモードです。

## サラウンドモードを選択する

サラウンドモードは以下の中から選びます。お聴きになるソフトのジャンルに合わせて選択してください。

- AUTO（オート） 2.1ch 5.1ch
  音声を加工せず、収録されている音声を忠実に再現します。
  CD などのステレオ音声は「STEREO(ステレオ)」2.1ch で出力します。
  DVD ビデオなどのマルチチャンネル音声は音声収録方式に応じて 5.1ch で出力します。

- DOLBY PL（ドルビープロロジック） 5.1ch
  ステレオ音声を 5.1ch で出力します(ただし、サラウンドチャンネルの音声はモノラルになります)。特にドルビーサラウンドで収録されている音源に効果的です。

- MOVIE（ドルビープロロジック II ムービー） 5.1ch
  ステレオ音声を 5.1ch で出力します。サラウンドチャンネルは定位や移動感を重視し、ドルビーデジタルなどに迫る音場を再現します。特にドルビーサラウンドで収録されている映画ソフトに最適です。サラウンドチャンネルへのダイアローグの漏れ込み（クロストーク）を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル 5.1 に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

- MUSIC（ドルビープロロジック II ミュージック） 5.1ch
  ステレオ音声を 5.1ch で出力します。サラウンドチャンネルは包囲感を重視しています。
  特に CD などの音楽に最適です。

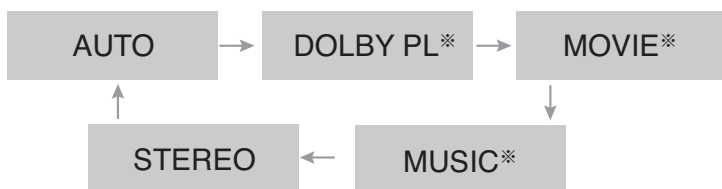
- STEREO（ステレオ） 2.1ch
  ステレオ音声をそのままステレオ再生（左右 2 つのフロントスピーカーとサブウーファーのみによる再生）します。マルチチャンネル音声も 2.1ch で再生します。

## 1. サラウンドボタンを押して 、お好みのサラウンドを選ぶ

押すたびに、以下のように切り換わります。

AUTO → DOLBY PL※ → MOVIE※ → MUSIC※ → STEREO → AUTO

※ 音源がステレオ音声のときのみ選ぶことができます。

## メ モ

- ▼ ドルビープロロジックII ミュージック モードに音響効果を加えることができます。(➡35 ページ)
- ▼ サラウンドモード表示中に ⇧ ⇩ ボタンを押すことでモードを切り換えることもできます。

## Q&A

**Q : サラウンドやセンタースピーカーから音が出ない!または、音が小さくて物足りない!**

→ **サラウンドボタン**または**アドバンスドボタン**を押して、各モードをお試しください。

→ 36 ページの「スピーカー出力レベルを設定する」を参照して、各スピーカーからの再生音を調整してください。

## アドバンスドサラウンドモードを選択する

フロントスピーカーに加え、センタースピーカーやサラウンドスピーカーも使い、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するときのリスニングモードです。表示部に「SURR.」インジケーターが点灯します。

- ADVMOVIE（アドバンスドムービー） 5.1ch
  映画再生に適したモードです。特にドルビーデジタル、DTS エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的で、映画館で映画を楽しんでいる雰囲気を味わうことができます。

- ADVMUSIC（アドバンスドミュージック） 5.1ch
  音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）に限らずドルビーデジタル、DTS エンコードされた音楽作品を再生するときにも効果的です。コンサートホールのような雰囲気を味わうことができます。

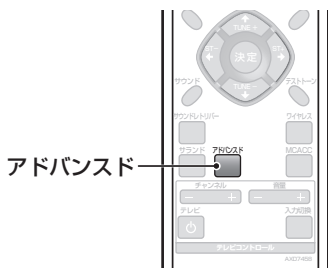
- EXPANDED（エキスパンデッド） 5.1ch
  ドルビーサラウンドや 2 チャンネルで録音されているソースに対しては、5.1 ｃｈサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルやDTS などの5.1 ch サラウンドソフトを再生しているときも、より広がりのある音場を実現します。

- TV SURR.（TVサラウンド） 5.1ch
  テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号も、マルチチャンネルサラウンドで再生します。モノラル放送の古い映画などをマルチチャンネルサラウンドでお聴きになりたいときに効果的です。

- SPORTS（スポーツ） 5.1ch
  スポーツ中継の臨場感を体感できるモードです。会場の雰囲気をマルチチャンネルサラウンドで再現します。

- GAME（ゲーム） 5.1ch
  ゲームのスピード感、躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。

- VIRTUAL（バーチャル） 2.1ch
  サブウーファーとフロントスピーカーを使ったバーチャルサラウンドモードです。

- 5 STEREO（5 チャンネルステレオ） 5.1ch
  2 chで収録された音声をステレオ音声のまま5.1チャンネルで再生するので、部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

**1.** アドバンスド

### アドバンスドボタンを押す

押すたびに、モードが切り換わります。

### メ モ

- ▼ アドバンスドサラウンドモードを解除したいときは、**サラウンドボタン**を押してください。
- ▼ アドバンスドサラウンドモード表示中に⇧ ⇩ **ボタン**を押しても切り換えることができます。

## 圧縮音声を高音質化する（サウンドレトリバー）

WMA、MP3、MPEG-4 AACなどのステレオ圧縮音声を再生するときに効果的です。圧縮音声は圧縮処理される際、人が感じ取りにくい部分の音声が削除されてしまいます。サウンドレトリバー機能では、削除されてしまった部分の音声をDSP処理によって補い、音の密度感、抑揚感を向上させて再生します。

**1.** **サウンドレトリバーボタンを押す**

現在の設定内容が表示されます。

RTRV OFF

**2.** **手順１で設定内容が表示されている間に、もう一度サウンドレトリバーボタンを押す**

押すたびに、オンとオフが切り換わります。
表示部に「SOUND」インジケーターが点灯します。

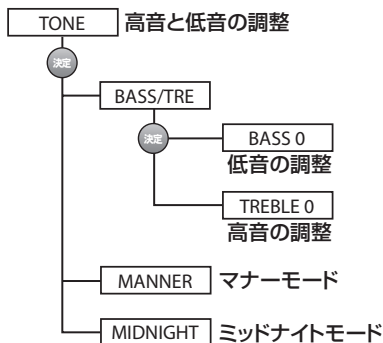
### メモ

- ▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、サウンドレトリバー機能を切り換えることができません。
- ▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、サウンドレトリバー機能の効果は得られません。

## サウンドモード(音質)の調整を行う

**1.** サウンド **サウンドボタンを押す**

**2.** **⇦ ⇨ で各設定項目を選択して、決定ボタンを押す**

各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

MCACC EQ　周波数特性の補正

C WIDTH　センター幅の調整

DIMEN.　ディメンション調整

PANORAMA　パノラマ調整

（ドルビープロロジックIIミュージックモード選択時のみ設定することができます。）

**3.** **⇧ ⇩ で、手順２で選択した項目を設定する**

**4.** 決定 **決定ボタンを押して、設定モードを終了する**

**メ モ**

▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときは、サウンドモード（音質）の調整を行うことはできません。

●：お買い上げ時の設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|---|---|
| TONE<br>音質の設定 | ● BASS/TRE:<br>低音と高音の音質をお好みで調整することができます。<br><br>BASS 0:<br>**低音の調整**<br>再生する曲の低音（Bass）の音質を調整します。<br>● 0<br>－３～＋３の間で調整できます。<br><br>TREBLE 0:<br>**高音の調整**<br>再生する曲の高音（Treble）の音質を調整します。<br>● 0<br>－３～＋３の間で調整できます。<br><br>○ MANNER（マナー）:<br>夜間に音楽や映画を楽しむとき、突然の爆発音などが大きく出ることがあり、隣室などへ音もれといった迷惑をかけることがあります。この機能は、低域と高域を抑えることにより隣室などへの音もれを低減しつつ、セリフを聴き取りやすくするモードです。<br><br>○ MIDNIGHT（ミッドナイト）:<br>音量を小さくすると、サラウンドサウンドが弱くなったり、微小な音が聴こえにくくなることがあります。この機能は、音量を小さくしても、ほどよい臨場感と高域のクリア感を確保することができるモードです。夜間に音量を小さくして映画を楽しむ場合に適しています。<br><br>**メ モ**<br>▼ ミッドナイトとマナーモードをオフにしたいときは、BASS/TRE を選択します。 |

●：お買い上げ時の設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|---|---|
| BASSMODE<br>**低音の強調**<br>低音だけを強調して迫力ある低音で再生します。音楽の低音再生に適したMUSICモードと、映画の重低音再生に適したCINEMAモードのいずれかを選ぶことができます。<br><br>ステレオ再生（2.1ch）とマルチチャンネル再生（5.1ch）で、別々のモードを設定することができます。 | ● OFF:<br>通常の音質です。<br><br>○ MUSIC:<br>重低音を補正して、臨場感を増やした設定で、音楽ライブのソフトにお勧めです。<br><br>○ CINEMA:<br>MUSIC よりもさらに低音を強調した設定で、アクションシーンや戦闘、爆発音の多い映画ソフトにお勧めです。<br><br>**メモ**<br>▼ 再生しているソースによっては、CINEMA や MUSICに設定しているとサブウーファーの音が歪んでしまうことがあります。このようなときは OFF に設定してください。 |
| DIALOGUE<br>**セリフやボーカル音の調整**<br>セリフやボーカルを明瞭に再生します。効果は OFF、MID(弱)、MAX(強)の中から選ぶことができます。 | ● OFF:<br>通常の音質です。<br><br>○ MID:<br>セリフやボーカルを明瞭に再生します。<br><br>○ MAX:<br>セリフやボーカルをより明瞭に再生します。 |
| MCACC EQ<br>**アコースティックEQ（周波数特性の補正）**<br>サラウンドの自動設定（MCACC）（23 ページ）で設定された周波数特性の補正をオン / オフします。オンにすることでチャンネル間の音色の違いを統一させ、再生音のつながりを良くし、音場バランスを改善します。 | ● EQ OFF:<br>ON または OFF のどちらかを選択します。<br><br>**メモ**<br>▼ サラウンドの自動設定（MCACC）（23ページ）を行ったときは自動的に EQ ON になります。<br>▼ EQ OFF を選択したときでもサラウンドの自動設定（MCACC）で設定されたスピーカーの出力レベルと距離の設定は保持されます。 |

●：お買い上げ時の設定

| 設定項目 | 設定内容 |
|---|---|

C WIDTH

**センター幅の調整**

ドルビープロロジック II ミュージックモード時、センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。
この調整によって音色の不一致を緩和させることが可能になり、音楽再生に適した音域を創り出すことができます。

●３
０〜７の間で調整できます。
（0 はセンタースピーカーのみからの出力で 7 はセンターチャンネルの音声をすべて左右のフロントスピーカーに振り分けます。）

**メ モ**

▼ ドルビープロロジックIIミュージックモード時のみ選択できます。
▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。

---

DIMEN.

**ディメンションの調整**

ドルビープロロジック II ミュージックモード時、リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整します。この調整を行うことで広がりのある音場を創り出すことができます。

●0
−３〜+3 の間で調整できます。
（− ３はリスニングポジションから後方の音場が強くなり、+３ は前方の音場が強くなります。）

**メ モ**

▼ ドルビープロロジックIIミュージックモード時のみ選択できます。
▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。

---

PANORAMA

**パノラマ調整**

ドルビープロロジック II ミュージックモード時、前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。

● PNRM.OFF:
ON または OFF のどちらかを選択します。

**メ モ**

▼ ドルビープロロジックIIミュージックモード時のみ選択できます。
▼ マルチチャンネル音声を再生しているときは、選択できません。

## スピーカー出力レベルを設定する

**・サラウンドの自動設定（MCACC）（23ページ）を行った場合、「スピーカー出力レベルの調整」は自動で高精度に測定 / 設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。**

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたいときに、そのチャンネルのレベルを調整することができます。出力レベルはステレオ再生（2.1ch）とマルチチャンネル再生（5.1ch）で別々に設定することができます。

ただし、この調整を行ったあとに MCACC を行うと、ここでの設定は無効になります。

### 再生している音声で調整する

ラジオや CD、DVD などの音声を聞きながら、各スピーカーごとにお好みの音の大きさに調整する方法です。

**1.** **音声を再生し、サラウンドボタンまたはアドバンスドボタンを押して、ステレオ再生（2.1ch）かマルチチャンネル再生（5.1ch）か調整したい方のリスニングモードを選ぶ (29～31 ページ)**

サラウンド

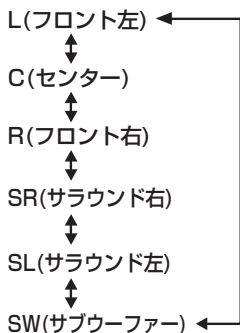
アドバンスド

**2.** **設定ボタンを押す**

設定

**3.** **⇦ ⇨ で、"CH LEVEL" を選んで決定ボタンを押す**

CH LEVEL

**4.** **⇦ ⇨ で、出力レベルを調整するチャンネルを選択する**

**5.** **⇧ ⇩ で、各チャンネルの出力レベルを調整する**

チャンネルレベルは、± 10 dB の範囲で調整できます。

**6.** **手順 4 から 5 を繰り返して、各スピーカーのレベルを調整する**

**7.** **決定ボタンを押す**

決定

**メ モ**

▼ ステレオ音声出力（2.1ch）のときは、センターおよびサラウンドチャンネルの出力レベルを調整することはできません。

▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときは、出力レベルを調整することはできません。

## テストトーンで調整する

ザーというテストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量バランスを調整する方法です。

**1.** サラウンド アドバンスド

**サラウンドボタンまたはアドバンスドボタンを押して、ステレオ再生（2.1ch）かマルチチャンネル再生（5.1ch）か調整したい方のリスニングモードを選ぶ (29～31ページ)**

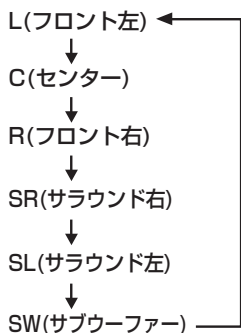
**2.** テストトーン

**テストトーンボタンを押す**

以下の順番で、各チャンネルのテストトーン(ザーという音)が、自動的に切り換わって出力されます。

**3.** 音量

**調整しやすい音量にする**

**4.**

**⇧⇩で、テストトーンが出力されているスピーカーの出力レベルを調整する**

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10 dBの範囲で調整できます。

**5.**

**すべてのスピーカーの調整が終了したら、決定ボタンを押す**

テストトーンが止まり、調整を終了します。

### メモ

- ▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえる場合があります。
- ▼ サブウーファーの調整は実際に音楽や映画ソースなどを使って適切な値に調整することをおすすめします。(36ページ)
- ▼ AUTOモードでテストトーンを出力したときは、再生しているソースによらず、5.1ch用の設定値が表示され、調整することができます。
- ▼ ステレオ再生（2.1ch）のときは、センターおよびサラウンドスピーカーからはテストトーンが出力されません。
- ▼ ワイヤレススピーカーをステレオスピーカーとして使用しているときは、テストトーンを出力することはできません。

## スピーカーの距離を設定する

**・サラウンドの自動設定（MCACC）（23ページ）を行った場合、「スピーカー距離の設定」は自動で高精度に測定 / 設定されているので、ここでの設定は必要ありませんが、お好みに応じて調整することもできます。**

リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差に生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。
ただし、この調整を行ったあとに MCACC を行うと、ここでの設定は無効になります。

**1.** 設定

**設定ボタンを押す**

**2.**

**⇦ ⇨で、"DISTANCE" を選んで決定ボタンを押す**

DISTANCE

**3.**

**⇦ ⇨で、距離を設定するチャンネルを選ぶ**

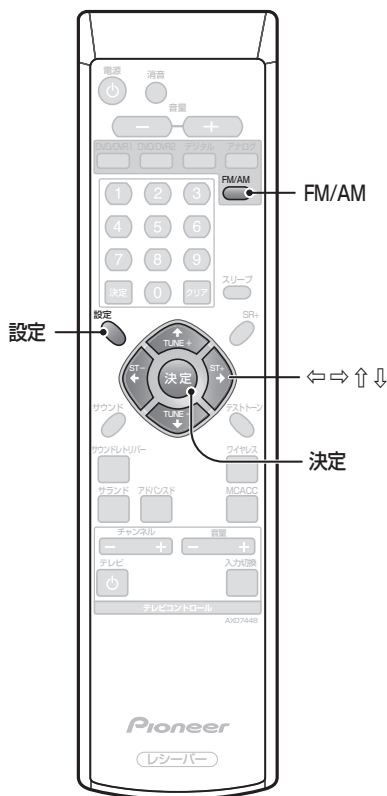
**4.**

**⇧ ⇩で、各スピーカーまでの距離を設定する**

0.3 m～9.0 mの間を0.3 m間隔で設定できます。
お買い上げ時の設定は 3.0 m です。

**5.**

**手順３から４を繰り返して、各スピーカーまでの距離を設定する**

**6.** 決定

**決定ボタンを押す**

## 放送局を受信する

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。12～13ページを参照して、アンテナを接続してください。

### 1. FM/AM ボタンを押す

ラジオが聞ける状態になります。

FM/AM

FM　76.00

AM　522

**FM/AMボタン**を押すたびに、FMとAMが切り換わります。
FM放送を聞くときはFMを、AM放送を聞くときはAMを選択してください。

### 2. ⇧⇩を押して、聞きたい放送局に周波数を合わせる

周波数の合わせ方（チューニング）には、以下の3通りがあります。

- **オートチューニング**

⇧⇩（TUNE +/–）を押し続けて、周波数が動き始めたら指を離します。
周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。
途中で止めるときは、もう一度⇧⇩を押すか、**決定ボタン**を押します。

- **マニュアルチューニング**

⇧⇩（TUNE +/–）を1回ずつ押します。
周波数が1ステップずつ変化します。

- **ハイスピードマニュアルチューニング**

⇧⇩（TUNE +/–）を押し続けます。
ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を離すと止まります。

## FM放送の雑音を減らす

遠い放送局や電波の弱い地域などで、FMのステレオ放送に雑音が多いときは、強制的にモノラルにして放送を聞きやすくします。
お買い上げ時は、放送局側に合わせて自動的にステレオとモノラルを切り換える"AUTO"に設定されています。

**1.** FM/AM

### FM/AMボタンを押して、FM放送を受信する

放送局の受信のしかたは、３９ページを参照してください。

**2.** 設定

### 設定ボタンを押す

**3.**

### ⇦ ⇨で"FM MODE"にしてから、決定ボタンを押す

FM MODE

**4.**

### ⇧ ⇩で"FM MONO"にしてから、決定ボタンを押す

FM MONO

表示部に、○ が点灯します。
FMステレオ放送をステレオで受信するように設定する場合は、"**FM AUTO**"にします。

**Q&A**

**Q: FMステレオ放送なのに、ステレオにならない**

→ 放送されているFMがモノラル放送か、電波の弱い場合は、ステレオ放送になりません。

## AM放送の雑音を減らす

**1.** FM/AM

### FM/AMボタンを押して、AM放送を受信する

放送局の受信のしかたは、３９ページを参照してください。

**2.** 設定

### 設定ボタンを押す

**3.**

### ⇦ ⇨で"NOISE CUT"を選んで決定ボタンを押す

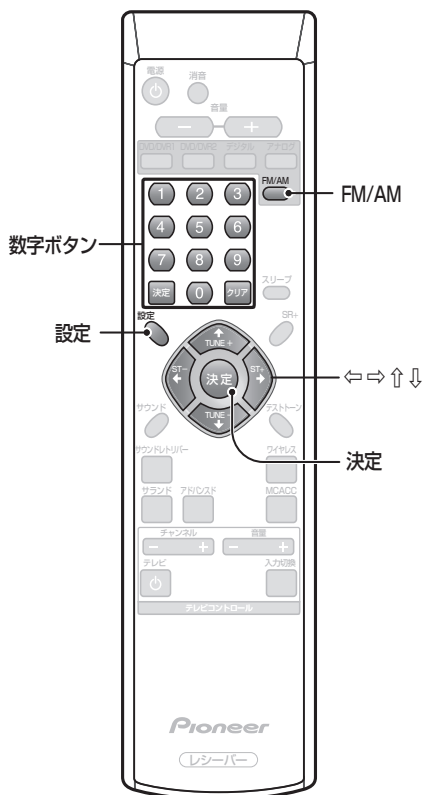
NOISE CUT

**4.**

### ⇧ ⇩で"MODE"を選んで決定ボタンを押す

"MODE"は１〜３から選ぶことができます。
雑音が最も小さい"MODE"を選んでください。

## 受信した放送局を記憶する

FM/AM放送合わせて30局まで、ステーション（記憶番号）に記憶することができます。

**1.** FM/AM

**FM/AM ボタンを押し、記憶したい放送局を受信する**

放送局の受信のしかたは、39ページを参照してください。

**2.** 設定

**設定ボタンを押す**

**3.**

**⇦ ⇨ で "ST.MEM." にしてから、決定ボタンを押す**

ST . MEM.

**4.**

**⇧ ⇩ で、記憶するステーションを選ぶ**

記憶するためのステーションは 1 ～ 30 まであります。

01 76.10

**5.** 決定

**決定ボタンを押して記憶させる**

### メ モ

▼ すでに記憶されているステーションに違う放送局を記憶させると、前の放送局は消去され、新しい放送局がステーションに記憶されます。

## 記憶した放送局を呼び出す

各ステーション（記憶番号）に記憶させた放送局を聞くことができます。

**1.** FM/AM

### FM/AM ボタンを押す

ラジオが聞ける状態にします。

**2.**

### ⇦ ⇨ で、記憶したステーションを選ぶ

01 76.10

## リモコンの数字ボタンで呼び出す

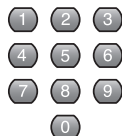
**1.** FM/AM

### FM/AM ボタンを押す

ラジオが聞ける状態にします。

**2.**

### ステーション番号と同じ数字ボタンを押す

0

（例）ステーション２　：2

ステーション 18 ：1 8

**3.**

### 決定ボタンを押す

ダイレクトにステーションを選ぶことができます。
**数字ボタン**を押して2秒以上待つと、**決定ボタン**を押さなくても選ぶことができます。

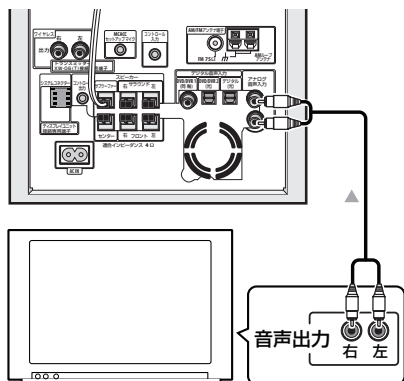
接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。
また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

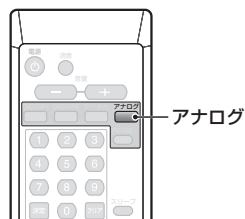
# テレビの音声を本機で聞くには

アナログ音声出力端子のあるテレビを本機に接続して、その音声をサラウンドで楽しむことができます。

## 接続のしかた

本機の**アナログ音声入力端子**と、接続したいテレビの音声出力端子とを、市販のオーディオコード（ピンプラグ付接続コード）で接続します。

- 接続するテレビの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- アナログ音声入力端子には、テレビ以外のアナログソース機器も接続できます。

## 本機で聞くには

**1** アナログボタンを押す

### メ モ

▼ マルチチャンネル（5.1 ch）再生にしたいときは、リスニングモードを5.1chに切り換えてください。（29～31ページ）

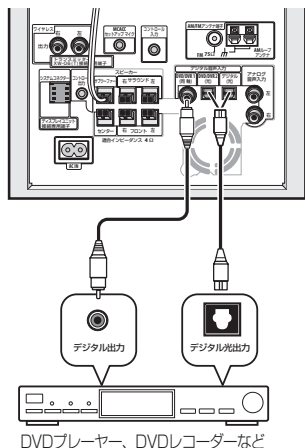
# DVD レコーダーなどの音声を本機で聞くには

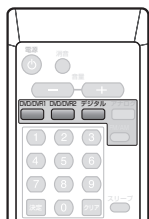
本機には、光デジタル入力端子が 2 系統、同軸デジタル入力端子が 1 系統の計 3 系統のデジタル入力端子があります。DVD レコーダー、DVD プレーヤー、BS/CS デジタルチューナーなどの機器と接続し、映画などを5.1 ch サラウンドで楽しむことができます。

## 接続のしかた

接続したい機器のデジタル出力端子と、本機の **DVD/DVR1 同軸入力端子**、**DVD/DVR2 光入力端子**、**デジタル光入力端子**のいずれかとを付属(または市販)の光デジタルケーブルか同軸デジタルケーブルで接続します。

- それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

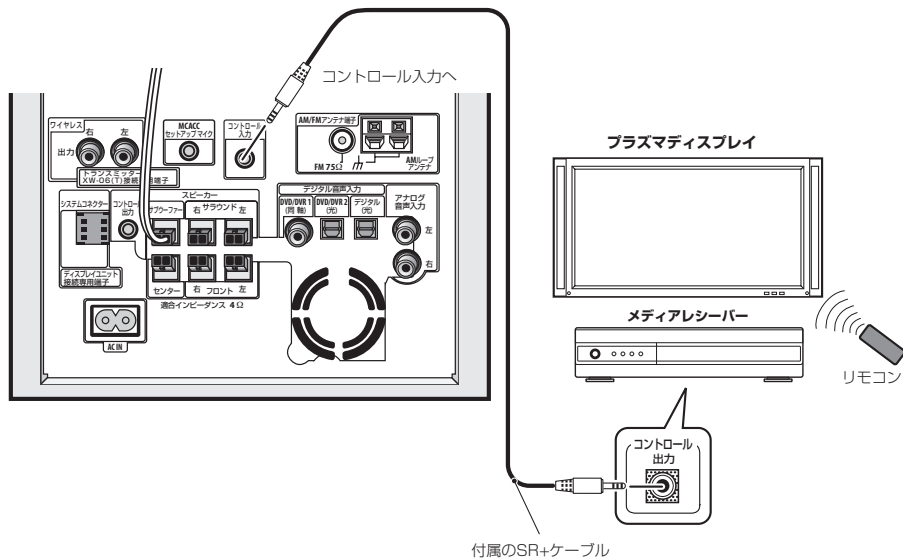
DVDプレーヤー、DVDレコーダーなど

## 本機で聞く（デジタル入力にする）には

**1** 接続した端子名と同じ名前の入力ボタンを押す

### メ モ

▼ デュアルモノ音声（二カ国語音声番組など）を切り換えることができます。（50 ページ）

▼ 接続した機器にデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

## パイオニアプラズマディスプレイとシステム動作させるには

SR+に対応したプラズマディスプレイ（2003年以降に発売されたモデル）と本機をSR+ケーブルで接続することでシステム動作が可能になります。システム動作とは、リモコンをプラズマディスプレイに向けて本機を操作したり、本機の表示がプラズマディスプレイにも表示されたり、プラズマディスプレイの音量を自動で下げたり、本機とプラズマディスプレイの入力を連動させて切り換えたりすることを示します。
接続には付属のSR＋ケーブルを使用します。接続が終わったら各設定を行ってください。

### 注 意

- ◆ SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときは、リモコンで本機の操作ができません（ただしプラズマディスプレイがスタンバイ状態のときは、操作は可能です）。
- ◆ SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイのリモコン受光部に向けてください。
- ◆ 本機とプラズマディスプレイをSR＋ケーブルで接続したあと、本機とプラズマディスプレイの電源を入れてください。

## 音量連動モードの設定

本機の操作に連動して、プラズマディスプレイの音量を下げるかどうか設定します。
「ON」に設定すると本機の電源をオンにしたり本機の入力を切り換えたとき、瞬時にプラズマディスプレイの音量が0になり本機の音に切り換わります。

**1.** SR+ ボタンを押す

**2.** ⇦ ⇨ で"SETUP"を選んで決定ボタンを押す

| SETUP |
|---|

**3.** ⇦ ⇨ で、音量連動モードの設定モードを選ぶ

現在の設定内容が表示されます。

| VOL.C OFF |
|---|

**4.** ⇧ ⇩ で、ON または OFF を選ぶ

押すたびに以下のように切り換わります。

VOL.C ON ↔ VOL.C OFF

**5.** 決定ボタンを押して、設定モードを終了する

### メ モ

▼ 再度プラズマディスプレイの音を出したいときはプラズマディスプレイの音量を上げてください。

## 入力連動モードの設定

本機の入力（音声）を切り換えたときに、プラズマディスプレイの入力（画像）も自動で切り換えるかどうか設定します。

**1.** SR+ ボタンを押す

**2.** ⇦ ⇨ で"SETUP"を選んで決定ボタンを押す

**3.** ⇦ ⇨ で、連動させる本機の入力を選ぶ

各入力の現在の設定内容が表示されます。

| DV1 PDP3 |
|---|

**4.** ⇧ ⇩ で、接続に合わせてプラズマディスプレイの映像入力を切り換える

押すたびにプラズマディスプレイの入力が以下のように切り換わります。

→ TVTN → PDP1 → PDP2 → PDP3 → PDP4 → PDP5(PC) → NONE →

- NONE のときは入力切換は連動しません。（工場出荷時はすべて NONE に設定されています。）
- TVTN はプラズマディスプレイの TV チューナー（アナログ放送）を表しています。BS デジタル放送を選ぶときは、本機の入力を切り換えてからプラズマディスプレイの放送をアナログ放送から BS 放送に切り換えてください。
- PDP1 ～ 5 は、プラズマディスプレイの入力端子を表しています。
- 本機の各入力（DV1(DVD/DVR1)、DV2(DVD/DVR2)、DIG(デジタル)、ANA(アナログ)）について設定することができます。たとえば、DVD レコーダーを本機の DVD/DVR1 とプラズマディスプレイの映像入力２に接続している場合は、DV1　PDP2 と設定してください。

**5.** 決定ボタンを押して、設定モードを終了する

## 連動モードを ON にする

本機とプラズマディスプレイが SR+ ケーブルで接続されていることを確認してください。

**1.** プラズマディスプレイの電源を入れる

**2.** 本機の電源を入れる

**3.** SR+ ボタンを押す

**4.** ⇦ ⇨ で"SR + ON"を選んで、決定ボタンを押す

連動動作が実行され、「SR+ ON」が点滅表示します。

| SR+　ON |
|---|

### メ モ

- ▼ プラズマディスプレイの電源がOFFのときまたは正しく接続されていないときは連動モードは働きません。
- ▼ 入力連動モードを設定していない入力のときは、プラズマディスプレイの画面は切り換わりません。
- ▼ SR+ ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。(スタンバイ時は操作が可能です。)
- ▼ 連動モードは本機がスタンバイモード時も記憶されています。
  これにより、本機の電源をオンにしたときにプラズマディスプレイの連動動作が行われる場合があります。

## 連動モードを OFF にする

本機の電源がオンで、連動動作が実行されていることを確認してください。

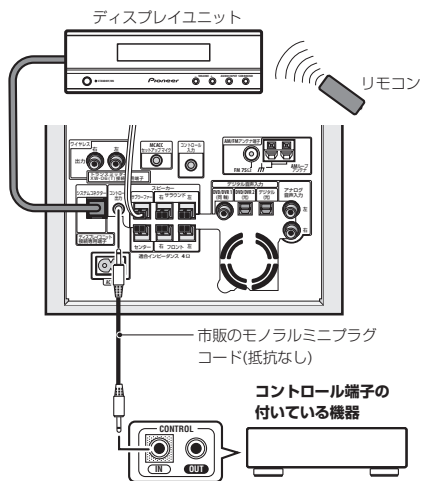
**1.** SR+ ボタンを押す

**2.** ⇦ ⇨ で"SR + OFF"を選んで、決定ボタンを押す

連動モードが解除され、「SR + OFF」が点滅表示します。

| SR+　OFF |
|---|

## コントロール端子の付いている機器と接続する

コントロール端子の付いたパイオニア機器と接続すると、本機のディスプレイユニットにリモコンを向けて接続した機器を操作することができます。（システムコントロール）
これにより、リモコン受光部がない機器やリモコン受光部が信号を受けられない場所に設置した機器も操作することができます。

本機のコントロール出力端子の接続をするときは、本機と接続する機器とを必ずオーディオコードまたは同軸デジタルケーブルでも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

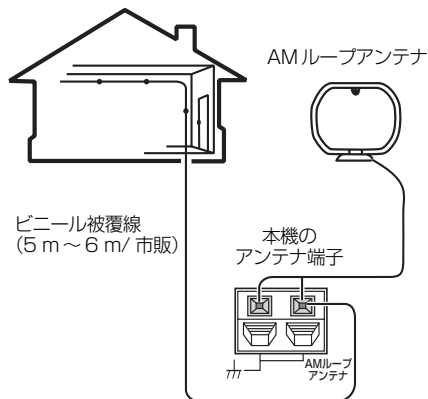
### メ モ

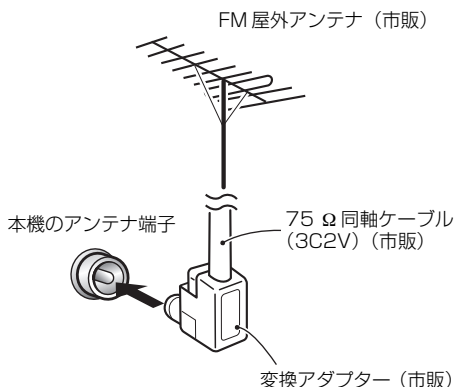
- ▼ 接続には市販のモノラルミニプラグコード(抵抗なし)を使用してください。
- ▼ コントロール入力端子(CONTROL IN)にプラグを接続した機器のリモコン受光部は信号を受け付けません。
- ▼ 上記の接続に加えて、本機とプラズマディスプレイをSR+ケーブルで接続しているときは、リモコンはプラズマディスプレイに向けて操作してください。

## 外部アンテナを接続する

付属のAMループアンテナやFM簡易アンテナでは放送局がよく聞こえないときは、市販の外部アンテナを接続してください。

### AM外部アンテナをつなぐ

- AM外部アンテナ（市販のビニール被覆線）を下図のように接続してください。

### FM屋外アンテナをつなぐ

- 市販のFM屋外アンテナを接続するには、市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように接続してください。

## ダイナミックレンジコントロールを設定する

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

**1.** 設定

**設定ボタンを押す**

**2.**

**⇦ ⇨ で "DRC" を選んで、決定ボタンを押す**

| DRC |
|---|

**3.**

**⇧ ⇩ で設定を選んで、決定ボタンを押す**

- DRC OFF
  ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
- DRC MID
  ダイナミックレンジを少し圧縮します。
- DRC HIGH
  ダイナミックレンジを最も圧縮します。

### メモ

- ▼ 小さい音量で楽しむ場合は、DRC HIGHに設定することをお勧めします。
- ▼ ダイナミックレンジコントロールに対応しているドルビーデジタル音声やDTS音声にのみ効果があります。
- ▼ 再生しているディスクよっては、効果の少ないものもあります。

## CD タイプの設定

再生するCDの種類を選択することで、本機の設定を最適な環境にします。
ソース機器でDTS-CDを再生しない場合は、この設定は必要ありません。

**1.** 電源

### 電源をオフにする

電源が入っているときは、⏻電源ボタンを押します。

**2.** 設定

### 設定ボタンを押す

**3.**

### ⇦ ⇨ で "CD TYPE" を選んで、決定ボタンを押す

| CD TYPE |
|---|

**4.**

### ⇧ ⇩ で設定を選んで、決定ボタンを押す

- **NORMAL**

DTS-CDを再生すると曲頭部分でノイズが聞こえることがありますが、通常のCDの再生ではノイズが聞こえるようなことはありません。

- **DTS-CD**

DTS-CD を再生してもノイズが聞こえることはありませんが、通常のCD を再生すると曲頭部分が欠けて聞こえることがあります。

## デュアルモノの設定

DVDレコーダーなどの機器で、録画した二カ国語放送を再生(ドルビーデジタル 1+1デュアルモノ音声で）しているときや、地上/BS/CSデジタルチューナーなどで、二カ国語番組を視聴している(MPEG-2 AAC 1+1 デュアルモノ音声にて）ときに、音声選択を行います。

**1.** 設定

### 設定ボタンを押す

**2.**

### ⇦ ⇨で"DUAL MONO"を選んで、決定ボタンを押す

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

| DUAL MONO |
|---|

**3.**

### ⇧ ⇩ で設定を選んで、決定ボタンを押す

- **CH1 MONO**

チャンネル1のみを再生します。

- **CH2 MONO**

チャンネル2のみを再生します。

- **CH1/CH2**

チャンネル1、2の音声を左右のフロントスピーカーから振り分けて再生します。

### メモ

▼ MPEG-2 AAC、ドルビーデジタル、DTSの1+1 デュアルモノ音声のときのみ音声を切り換えることができます。

### Q&A

**Q: デュアルモノ音声(二カ国語音声)を再生しているのに音声が切り換わらない**

→ 再生側の機器のデジタル出力設定が、リニアPCMに設定されていると、デュアルモノ音声にはなりません。ドルビーデジタルやMPEG-2 AACなどで出力してください。

→ アナログ接続の時は音声を切り換えることはできません。再生側の機器で切り換えてください。

## スリープタイマー

約 60 分後に自動的に電源が切れます。ラジオを聞きながら眠ったりするときに便利です。

**1.** スリープ

**スリープボタンを押して"SLP ON" を選んで、決定ボタンを押す**

SLP ON

スリープタイマーが設定されると、⏾が点灯し、表示部が暗くなります。
途中で取り消す場合は、"SLP OFF" にします。

### メ モ

▼ スリープタイマー設定後にスリープボタンを押すと、電源が切れるまでのおおよその時間を確認することができます。

SLP ー ー ー ー ー

ひと目盛りは、12分を表しています。

## 表示部の明るさをかえる

ディスプレイユニットの表示部の明るさを変えることができます。

**1.** 設定

**設定ボタンを押す**

**2.**

**⇦ ⇨ で "DIMMER" を選んで、決定ボタンを押す**

DIMMER

**3.**

決定

**⇧ ⇩ で設定を選んで、決定ボタンを押す**

● LIGHT
購入時の表示部の明るさです。
ただし、スリープタイマーが設定されていると、表示部は暗くなります。

● DARK
表示部が暗くなります。

## 設定した内容をお買い上げ時の状態に戻す

**1.** 電源

**電源をオンにする**

電源が切れているときは、⏻電源ボタンを押して、本機の電源を入れます。

**2.**

**ディスプレイユニットの SURROUND ボタンを押しながら、⏻STANDBY/ON ボタンを押す**

電源がオフ(スタンバイモード)になります。電源をオンにすると、設定した内容がすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

### メ モ

▼ 初期化すると、記憶していたすべてのメモリーが同時に消去されます。初期化するときは十分にご注意ください。

## メーカーコードリスト

● 20ページからの続きです。

ACURA, **644**
ADMIRAL, **631**
AKAI, **632**, **635**, **642**
AKURA, **641**
ALBA, **607**, **639**, **641**, **644**
AMSTRAD, **642**, **644**, **647**
ANITECH, **644**
ASA, **645**
ASUKA, **641**
AUDIOGONIC, **607**, **636**
BASIC LINE, **641**, **644**
BAUR, **631**, **607**, **642**
BEKO, **638**
BEON, **607**
BLAUPUNKT, **631**
BLUE SKY, **641**
BLUE STAR, **618**
BPL, **618**
BRANDT, **636**
BTC, **641**
BUSH, **607**, **641**, **642**, **644**, **647**, **656**
CASCADE, **644**
CATHAY, **607**
CENTURION, **607**
CGB, **642**
CIMLINE, **644**
CLARIVOX, **607**
CLATRONIC, **638**
CONDOR, **638**
CONTEC, **644**
CROSLEY, **632**
CROWN, **638**, **644**
CRYSTAL, **642**
CYBERTRON, **641**
DAEWOO, **607**, **644**, **656**
DAINICHI, **641**
DANSAI, **607**
DAYTON, **644**
DECCA, **607**, **648**
DIXI, **607**, **644**
DUMONT, **653**
ELIN, **607**
ELITE, **641**
ELTA, **644**
EMERSON, **642**
ERRES, **607**
FERGUSON, **607**, **636**, **651**
FINLANDIA, **635**, **643**, **655**
FINLUX, **632**, **607**, **645**, **648**, **653**, **654**, **655**
FIRSTLINE, **640**, **644**
FISHER, **632**, **635**, **638**, **645**
FORMENTI, **632**, **607**, **642**
FRONTECH, **631**, **642**, **646**
FRONTECH/PROTECH, **632**
GBC, **632**, **642**
GE, **601**, **608**, **607**, **610**, **617**, **602**, **628**, **618**
GEC, **607**, **634**, **648**
GELOSO, **632**, **644**
GENEXXA, **631**, **641**
GOLDSTAR, **610**, **623**, **621**, **602**, **607**, **650**
GOODMANS, **607**, **639**, **647**, **648**, **656**
GORENJE, **638**
GPM, **641**
GRAETZ, **631**, **642**
GRANADA, **607**, **635**, **642**, **643**, **648**
GRADIENTE, **630**, **657**
GRANDIN, **618**
GRUNDIG, **631**, **653**
HANSEATIC, **607**, **642**
HCM, **618**, **644**
HINARI, **607**, **641**, **644**
HISAWA, **618**
HUANYU, **656**
HYPSON, **607**, **618**, **646**
ICE, **646**, **647**
IMPERIAL, **638**, **642**
INDIANA, **607**
INGELEN, **631**
INTERFUNK, **631**, **632**, **607**, **642**
INTERVISION, **646**, **649**
ISUKAI, **641**
ITC, **642**
ITT, **631**, **632**, **642**
JEC, **605**
JVC, **613**, **623**
KAISUI, **618**, **641**, **644**
KAPSCH, **631**
KENDO, **642**
KENNEDY, **632**, **642**
KORPEL, **607**
KOYODA, **644**
LEYCO, **607**, **640**, **646**, **648**
LIESENK&TTER, **607**
LOEWE, **607**
LUXOR, **632**, **642**, **643**
M-ELECTRONIC, **631**, **644**, **645**, **646**, **655**, **656**, **607**, **636**, **651**
MAGNADYNE, **632**, **649**
MAGNAFON, **649**
MAGNAVOX, **607**, **610**, **603**, **612**, **629**
MANESTH, **639**, **646**
MARANTZ, **607**
MARK, **607**
MATSUI, **607**, **639**, **640**, **642**, **644**, **647**, **648**
MCMICHAEL, **634**
MEDIATOR, **607**
MEMOREX, **644**
METZ, **631**
MINERVA, **631**, **653**
MULTITECH, **644**, **649**
NECKERMANN, **631**, **607**
NEI, **607**, **642**
NIKKAI, **605**, **607**, **641**, **646**, **648**
NOBLIKO, **649**
NOKIA, **632**, **642**, **652**
NORDMENDE, **632**, **636**, **651**, **652**
OCEANIC, **631**, **632**, **642**
ORION, **632**, **607**, **639**, **640**
OSAKI, **641**, **646**, **648**
OSO, **641**
OSUME, **648**
OTTO VERSAND, **631**, **632**, **607**, **642**
PALLADIUM, **638**
PANAMA, **646**
PATHO CINEMA, **642**
PAUSA, **644**
PHILCO, **632**, **642**
PHILIPS, **631**, **607**, **634**, **656**
PHOENIX, **632**
PHONOLA, **607**
PROFEX, **642**, **644**
PROTECH, **607**, **642**, **644**, **646**, **649**
QUELLE, **631**, **632**, **607**, **642**, **645**, **653**
R-LINE, **607**
RADIOLA, **607**
RADIOSHACK, **610**, **623**, **621**, **602**
RBM, **653**
RCA, **601**, **610**, **615**, **616**, **617**, **618**, **661**, **662**, **609**
REDIFFUSION, **632**, **642**
REX, **631**, **646**
ROADSTAR, **641**, **644**, **646**
SABA, **631**, **636**, **642**, **651**
SAISHO, **639**, **644**, **646**
SALORA, **631**, **632**, **642**, **643**
SAMBERS, **649**
SAMSUNG, **607**, **638**, **644**, **646**
SBR, **607**, **634**
SCHAUB LORENZ, **642**
SCHNEIDER, **607**, **641**, **647**
SEG, **642**, **646**
SEI, **632**, **640**, **649**
SELECO, **631**, **642**
SIAREM, **632**, **649**
SIEMENS, **631**
SINUDYNE, **632**, **639**, **640**, **649**
SKANTIC, **643**
SOLAVOX, **631**
SONOKO, **607**, **644**
SONOLOR, **631**, **635**
SONTEC, **607**
SOUNDWAVE, **607**
STANDARD, **641**, **644**
STERN, **631**
SUSUMU, **641**
SYSLINE, **607**
TANDY, **631**, **641**, **648**
TASHIKO, **634**
TATUNG, **607**, **648**
TEC, **642**
TELEAVIA, **636**
TELEFUNKEN, **636**, **637**, **652**
TELETECH, **644**
TENSAI, **640**, **641**
THOMSON, **636**, **651**, **652**, **663**
THORN, **631**, **607**, **642**, **645**, **648**
TOMASHI, **618**
TOWADA, **642**
ULTRAVOX, **632**, **642**, **649**
UNIVERSUM, **631**, **607**, **638**, **642**, **645**, **646**, **654**, **655**
VESTEL, **607**
VOXSON, **631**
WALTHAM, **643**
WATSON, **607**
WATT RADIO, **632**, **642**, **649**
WHITE
WESTINGHOUSE, **607**
YOKO, **607**, **642**, **646**
ZENITH, **603**, **620**

## 設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

**次のような場所は避けてください**

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

**上に物をのせない**

本機の上に物をのせないでください。

**熱を受けないように**

本機をアンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱を避けるため、アンプよりできるだけ下の棚に入れてください。

**本機を使わないときは電源を切る**

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

## 製品のお手入れについて

- 本体は通常、柔らかい布で から拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5〜6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

# 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。接続した機器などもあわせてお調べください。**特にデジタル接続しているときは、デジタル出力の設定を十分にご確認ください。**以下の項目に従って再度点検されても直らないときは、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

| 症状 | 原因 / 対策 | 参照ページ |
|---|---|---|
| 音が出ないまたは特定のスピーカーから音が出ない。 | • すべてのコードが完全に接続されていますか？接続のしかたを参照して、正しく接続してください。<br>• スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。<br>• ミューティング状態になっていませんか？リモコンの消音ボタンを押してください。<br>• 音量がゼロになっていませんか？音量を調整してください。<br>• プレーヤー(ソース機器)が対応していないフォーマットのソフトを再生していませんか？プレーヤーの取扱説明書を確認してください。<br>• 本機が対応していないフォーマット(MP3 など)の信号を入力していませんか？本機が対応しているフォーマットはドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCM です。 | **11~17 ページ**<br>**13~16 ページ**<br>**19 ページ**<br>**19 ページ** |
| サラウンドまたはセンタースピーカーから音が出ない。 | • スピーカーは正しく接続されていますか？もう一度接続を確認してください。<br>• ステレオ再生になっていませんか？リスニングモードを切り換えてマルチチャンネル再生 5.1ch にしてください。 | **13~16 ページ**<br>**29~31 ページ** |
| テストトーンが出ないスピーカーがある。 | • スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。<br>• 2.1ch のモードを選択していませんか？すべてのスピーカーからテストトーンを出力したいときは 5.1ch のモードを選択してからもう一度やり直してください。 | **13~16 ページ**<br>**29~31 ページ** |
| テストトーンがまったく出ない。 | • スピーカーの接続が外れていませんか？ 確認してください。<br>• ミューティング状態になっていませんか？リモコンの消音ボタンを押してください。 | **13~16 ページ**<br>**19 ページ** |
| 設定した内容が消えてしまった。 | • 本体の電源が入っているとき、強制的に電源コードを抜く、または停電などが起きると、設定した内容が消えてしまうことがあります。電源コードは、必ず本体の ⏻STANDBY/ON ボタン、またはリモコンの⏻電源ボタンを押して、表示窓の**[-OFF-]**表示が消えてから抜いてください。特に他機器の AC アウトレットから電源コードを接続しているときはご注意ください。 | |

| 症状 | 原因 / 対策 | 参照ページ |
| --- | --- | --- |
| 放送が聞こえない、聞き苦しい。 | • アンテナは接続されていますか？アンテナを正しく接続してください。<br>• アンテナの向き、位置は悪くなっていませんか？アンテナの向きや位置を調整してください。<br>• 電気器具（蛍光灯、ドライヤーなど）を使用していませんか？ノイズを発生させる機器の使用をやめてください。 | **11~13, 48ページ** |
| FM 放送がステレオなのにステレオにならない。 | • 表示部のモノインジケーターが点灯していませんか？ "FM MODE" の設定を AUTO にしてください。 | **40 ページ** |
| 接続したデジタル機器からの音が出ない。 | • 正しく接続されているか、もう一度確認してください。<br>• 接続した端子名と同じデジタル入力ボタンを押してください。 | **44 ページ**<br>**44 ページ** |
| 接続したアナログ機器(テレビなど)から音が出ない。 | • 正しく接続されているか、もう一度確認してください。<br>• アナログボタンを押してください。 | **43 ページ** |
| リモコンがきかない。 | • リモコンの電池が消耗していませんか？新しい電池に換えてください。このとき、設定したテレビメーカーコードが消える場合があります。20ページを参照して、もう一度やり直してください。<br>• 蛍光灯がリモコン受光部の近くにありませんか？蛍光灯をリモコン受光部から離してください。<br>• 7 m 以内、左右 30° 以内で、リモコンを本機に向けて操作してください。<br>• 本機とリモコンとの間に、信号を遮る障害物がありませんか?障害物を取り除くか、操作する場所を移動してください。<br>• MCACCセットアップ用マイクをコントロール入力端子に接続していませんか？接続を確認してください。<br>• SR+ケーブルを本機のコントロール入力端子に接続すると、本機のリモコン受光部は信号を受け付けません。リモコン操作をするときはリモコンをプラズマディスプレイのリモコン受光部に向けてください。<br>• 本機のコントロール出力端子の接続をするときは、本機と接続する機器とを必ずオーディオコードまたは同軸デジタルケーブルでも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。<br>• SR+ ケーブルでプラズマディスプレイを接続している場合は、プラズマディスプレイの電源が切れていないか確認してください。 | **20 ページ**<br>**18 ページ**<br>**18 ページ**<br><br>**23 ページ**<br>**45 ページ**<br>**48 ページ** |
| 動作しない。 | • 電源コードが外れていませんか？電源コードを正しく接続してください。 | **16~17 ページ** |

| 症状 | 原因 / 対策 | 参照ページ |
|---|---|---|
| 電源が入らないまたは電源が突然オフになった。<br>（再び電源を入れたときにエラーメッセージが表示される場合があります。） | • 電源コードを抜かずに 1 分後に再び本体の⏻STANDBY/ON ボタン、またはリモコンの⏻電源ボタンを押して電源を入れてみてください。<br>• スピーカーコードがショート（接触）していませんか？スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカー端子に接続し直してください。<br>• レシーバーサブウーファーのまわりに十分なスペースが空いていますか？通風がよくなるように設置をかえてみてください。<br>• 音量をもう少し小さくしてみてください。<br><br>上記の対策を行っても症状が改善されないときは、最寄りの弊社サービスステーションに連絡してください。 | <br><br>**13~16 ページ**<br><br>**5 ページ**<br><br>**19 ページ** |

## ワイヤレススピーカー関係

| 症状 | 原因 / 対策 |
|---|---|
| ワイヤレススピーカーの音声がとぎれる。 | • 本機の使用する電波は、高い周波数を使用しているため、光と同じように直進、反射、屈折、回折、干渉などの性質を持っています。そのため、場所により電波の強弱が起こり、音声が止まったりすることがあります。設置場所を変えてみてください。<br>• トランスミッターとワイヤレススピーカーの距離が離れ過ぎていませんか？電波の届く範囲でご使用ください。<br>• 電気雑音の発生しやすいところで使用していませんか？設置場所を変えてみてください。<br>• 複数台の当社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用していませんか？同じチャンネルにならないようにチャンネルを変えてみてください。 |
| ワイヤレススピーカーの音声が突然とぎれるようになった。 | • 近くに同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器である、コードレスフォン、Bluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器が作動していませんか？設置場所を変えてみてください。 |
| トランスミッターから出力された音声をワイヤレススピーカーが受信できない。 | • 障害物と反射物の影響で電波状態の良い位置と悪い位置があります。トランスミッターまたはワイヤレススピーカーの位置を少し動かしてみてください。<br>• トランスミッターとワイヤレススピーカーは対になっており、お互いに識別しています。別に購入されたトランスミッターとワイヤレススピーカーでは通信できない仕組みになっています。 |
| トランスミッター周辺に設置されたテレビの画像が乱れることがある。 | • トランスミッター周辺にアンテナが取り付けられているAV機器がありませんか？トランスミッターをAV機器のアンテナ入力端子から遠ざけてください。 |

• 静電気など、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは、電源コードを一度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

## マルチチャンネル再生にならないときは

マルチチャンネル（5.1 ch）再生にならないときは、以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。

**1.** **サラウンドボタンを押して、AUTOモードを選ぶ（30ページ）**

再生している音声に応じたサウンドモードに自動で切り換わります。

**2.** **テストトーンを出力してみる（37ページ）**

すべてのスピーカーからテストトーン（ザーという音）が出力されていることを確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続を確かめてから、もう一度テストトーンを出力してみてください。

**3.** **5.1ch のリスニングモードを選択する（29～31ページ）**

ステレオソースもマルチチャンネルにして再生します。

### メ モ

▼ 複数の音声が収録されているDVDディスクの場合、再生している音声によって、ステレオ再生またはマルチチャンネル再生になります。

## こんな表示が出たときは

サラウンドの自動設定（MCACC）中に表示されるエラーメッセージについては24ページをご覧ください。

（本体表示部） 96 K

88.2 kHz/96 kHz リニア PCM 信号を入力しているときに、以下のいずれかのボタン操作を行うと表示されます。

（本体表示部） MUTING

ミューティング中にテストトーンボタン または MCACC ボタンを押すと表示されます。

（本体表示部） 2CH ONLY

マルチチャンネル再生時にサウンドレトリバーボタンを押すと表示されます。

サウンドレトリバー

（本体表示部） EXIT

各種メニューを表示中に、そのメニューを表示することが禁止されている信号が入力されたときに表示され、通常表示に戻ります。

（本体表示部） EEP ERROR

お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

（本体表示部） NO SPTYP

一度電源コードをコンセントから抜いて、もう一度入れ直してから、電源をオンしてください。それでも同じ表示が出る場合は、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにお問い合わせください。

（本体表示部） W. STEREO

ワイヤレスモードが「STEREO」に設定されているときに、以下のボタン操作を行うと表示されます。

・サラウンド・アドバンスド・テストトーン
・MCACC・サウンドレトリバー

# 保証とアフターサービス

## 保証書（別添）について

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

**保証期間はご購入日から１年間です。**

## 補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付センターにご相談ください。
所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

## 修理を依頼されるとき

54～57ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

## 連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：ホームシアターシステム
- 型番：HTP-07
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

### ■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

### ■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

### ■ お願い：

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

**長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。**
**こんな症状はありませんか？**

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。

**すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いて、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。**

## 電波に関するご注意

- 本機は盗聴防止機能を搭載しておりますが、傍受（無線通信内容を第三者が別の受信機で故意または偶然に受信すること）にご注意ください。本機は電波を使用している関係上、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。機密を要する重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 本機は電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として、技術基準適合証明を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本機は日本国内のみで使用できます。

**本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記②に示すような機器もあります。**

① 2.4 GHz を使用する主な機器の例

- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線ルーター
- ワイヤレスAV機器（当社ワイヤレススピーカーを含む）
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- Bluetooth 対応機器

② 存在がわかりにくい2.4 GHzを使用する主な機器の例

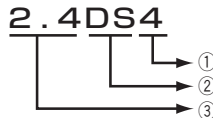
- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本システムを同時に使用すると、電波の干渉により、音がとぎれて雑音のように聞こえたり、音が出なくなることがあります。このようなときは、本機のTUNEDインジケーターが点滅または消灯しますが、電波干渉によるもので本機の故障ではありません。
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。

- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する
- トランスミッターのチャンネル選択ボタンで干渉されない他のチャンネルを選択する

**次の場所では本機を使用しないでください。ノイズが出たり、送信／受信ができなくなる場合があります**

- 同じ周波数帯（2.4 GHz）を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります）
- テレビにノイズが出た場合、トランスミッターがテレビ、ビデオ、BSチューナー、CSチューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。トランスミッターをアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

- 本機は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 分解／改造すること。
  - 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

①「4」 想定される与干渉距離(約40 m)を表します
②「DS」 変調方式を表します
③「2.4」 GHz帯を使用する無線設備を表します

- 本機の使用する周波数帯域（2.4 GHz）では、無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の他、工場、製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する）および、特定小電力無線局が同じように利用して運用されています。
  本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波障害の事例が発生した場合、すみやかにその場での本機の使用を中断してください。

## 使用範囲について

- ご家庭内での使用に限ります。
(通信の環境により伝送距離が短くなることがあります)

**次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声がとぎれたり停止したりします**

- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 同じ周波数帯(2.4 GHz)を利用する無線通信機器であるBluetooth、無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅(アパート・マンションなど)にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。なお、電子レンジは、使用していなければ電波干渉はおこりません。
- 複数台の当社のワイヤレススピーカーを同じ場所、同じチャンネルで使用した場合。

## 電波の反射について

- ワイヤレススピーカーに届く電波には、トランスミッターから直接届く電波(直接波)と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波(反射波)があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、ワイヤレススピーカーの場所を少し動かしてみてください。トランスミッターとワイヤレススピーカーの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声がとぎれたりすることがあります。

## 注 意

◆ お客さま、または第三者使用によるこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## 安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。
電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

**ご注意いただきたい電子機器の例**

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。
電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

本製品は家庭用オーディオ機器です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用(例:店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など)はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号(連続波)などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S26_Ja

## 用語解説

### ■ドルビーデジタル

DVDの標準音声タイプのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流となっている5.1 chサラウンドで記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1 chサラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネル個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことをいいます。

### ■ドルビープロロジック

2 chサラウンド信号や2 chステレオ信号をマルチチャンネルサラウンドで再生するための技術です。2 chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2 chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号を創り出します。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

### ■ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックをさらに改良し、ステレオ音声を5.1 chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5 chを創り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1 chに匹敵する移動感をも実現できます。

#### ■プロロジックとプロロジックIIの違い

| | プロロジック | プロロジックII |
|---|---|---|
| 効果的なソース | ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声 | すべてのステレオ音声 |
| デコードチャンネル数 | 4.1 ch (サラウンド モノラル) | 5.1 ch (サラウンド ステレオ) |
| 周波数特性 | サラウンド 7 kHz帯域制限 | 全チャンネル フルバンド |

### ■DTS

DTSとはDigital Theater Systems, Inc.社の5.1 chデジタル･サラウンド録音再生方式のことです。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1 chサラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1 chで音声を楽しむことができます。

### ■MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）

MPEG-2オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

| | |
|---|---|
| 08/937,950 | 5,481,614 |
| 5848391 | 5,592,584 |
| 5,291,557 | 5,781,888 |
| 5,451,954 | 08/039,478 |
| 5 400 433 | 08/211,547 |
| 5,222,189 | 5,703,999 |
| 5,357,594 | 08/557,046 |
| 5 752 225 | 08/894,844 |
| 5,394,473 | 5,299,238 |
| 5,583,962 | 5,299,239 |
| 5,274,740 | 5,299,240 |
| 5,633,981 | 5,197,087 |
| | |
| 5 297 236 | 5,490,170 |
| 4,914,701 | 5,264,846 |
| 5,235,671 | 5,268,685 |
| 07/640,550 | 5,375,189 |
| 5,579,430 | 5,581,654 |
| 08/678,666 | 05-183,988 |
| 98/03037 | 5,548,574 |
| 97/02875 | 08/506,729 |
| 97/02874 | 08/576,495 |
| 98/03036 | 5,717,821 |
| 5,227,788 | 08/392,756 |
| 5,285,498 | |

# 仕様

## レシーバーサブウーファー部 (SX-07SW)

### ■ アンプ部

実用最大出力（JEITA）
フロント（1 kHz、10 %、4 Ω）
............................................. 100 W/ ch
フロント（1 kHz、10 %、8 Ω）
.............................................55 W/ ch
センター（1 kHz、10 %、4 Ω）... 100 W
センター（1 kHz、10 %、6 Ω）...... 75 W
サラウンド（1 kHz、10 %、4 Ω）
............................................. 100 W/ ch
サブウーファー（100 Hz、10 %、4 Ω）
.................................................. 100 W

### ■ チューナー部

FM チューナー部
受信周波数 ......... 76.0 MHz ～ 90.0 MHz
アンテナ .............................. 75 Ω不平衡型
AM チューナー部
受信周波数 ........... 522 kHz ～ 1629 kHz
アンテナ .............................. ループアンテナ

### ■ サブウーファー部

型式 ................................... バスレフ式フロア型
使用スピーカー
ウーファー .................. 16 cm（コーン型）
公称インピーダンス ................................... 4 Ω
再生周波数帯域 ................ 25 Hz ～ 1000 Hz
最大入力.............................. 100 W（JEITA）

### ■ 入力端子

光デジタル入力
角型光ジャック ......................................... 2
同軸デジタル入力
RCA 端子 .................................................... 1
アナログ入力
RCA 端子 .................................................... 1

### ■ 電源部

電源電圧............... AC100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力.................................................... 47 W
スタンバイ消費電力 ............................ 0.20 W

### ■ その他

**レシーバーサブウーファー部**
外形寸法.... 200 mm X 375 mm X 437 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ....................................................... 9.0 kg

**ディスプレイユニット部**
外形寸法...214 mm X 65 mm X 60.5 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ..................................................... 0.22 kg

許容動作温度 ....................... ＋ 5 ℃～＋ 35 ℃
許容動作湿度 .. 5 %～ 85 %(結露のないこと)

### ■ 付属品

リモコン ......................................................... 1
AA/R6 単 3 形乾電池（動作確認用）............ 2
AM ループアンテナ ........................................ 1
FM 簡易アンテナ ............................................ 1
MCACC セットアップ用マイク .................... 1
ディスプレイユニット .................................. 1
電源コード....................................................... 1
同軸デジタルケーブル .................................. 1
光デジタルケーブル ....................................... 2
ディスプレイケーブル .................................. 1
SR+ ケーブル ................................................. 1
保証書 .............................................................. 1
取扱説明書

## センタースピーカー部 (S-B06C)

型式 ........................... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ ................. 7.7 cm（コーン型）
公称インピーダンス ................................. 6 Ω
再生周波数帯域 ............ 75 Hz ～ 20 000 Hz
最大入力............................ 100 W（JEITA）
外形寸法.... 270 mm X 90 mm X 100 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ....................................................... 0.8 kg

## ■ 付属品

スピーカーコード
（4 m / フロントスピーカー用）...................... 2
（4 m / センタースピーカー用）...................... 1
滑り止めパッド（大）...................................... 4
滑り止めパッド（小）...................................... 4

## ワイヤレススピーカーシステム部 (XW-06)

### ワイヤレススピーカー

電源 .................... AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力.................................................... 30 W
アンプ
実用最大出力（JEITA）............... 10 W/ch
......................... (1 kHz, THD 10 %, 4 Ω）
スピーカーユニット ... 7 cm（コーン型）X 2
外形寸法
........... 461.5 mm X 176.5 mm X 95 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ........................................................ 2.9 kg

### トランスミッター

AC アダプター
電源 ............... AC 100 V、50 Hz/60 Hz
定格 ....................................................... 9 VA
定格出力 ....................... DC12 V/300 mA
消費電力（本体のみ）................................. 2 W
入力 ..........................................RCA ジャック
外形寸法.... 166 mm X 56 mm X 112 mm
（幅）X（高さ）X（奥行）
質量 ........................................................ 0.3 kg

## ■ 付属品

オーディオコード ............................................ 1
AC アダプター .................................................. 1
電源コード....................................................... 1
コーションラベル ............................................ 1

- 保証書は、HTP-07 の外箱に貼ってあります。
- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば、飲食店等での営業用の長時間使用、車輌、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

### 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所へのおもいやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉めたり、ヘッドホンで聞くのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

9
その他

## サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付センターでお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービスステーション）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付センターにご確認ください。

### ●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| ☆札幌サービスセンター | FAX 011-611-5694 | 〒064-0822 | 札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル |
| 旭川サービス認定店 | FAX 0166-55-7207 | 〒070-0831 | 旭川市旭町1条1丁目438-89 |
| 帯広サービス認定店 | FAX 0155-23-7757 | 〒080-0015 | 帯広市西5条南28丁目1-1 |
| 函館サービス認定店 | FAX 0138-40-6473 | 〒041-0811 | 函館市富岡町2-18-7 |

### ●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| ☆仙台サービスセンター | FAX 022-375-4996 | 〒981-3121 | 仙台市泉区上谷刈6-10-26 |
| 山形サービス認定店 | FAX 023-615-1627 | 〒990-0023 | 山形市松波1-8-17 |
| 郡山サービス認定店 | FAX 024-991-7466 | 〒963-8861 | 郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号 |
| 盛岡サービスステーション | FAX 019-659-1895 | 〒020-0051 | 盛岡市下太田下川原153-1 |
| 青森サービス認定店 | FAX 017-735-2438 | 〒030-0821 | 青森市勝田2-16-10 |
| 八戸サービス認定店 | FAX 0178-44-3351 | 〒031-0802 | 八戸市小中野4-3-34 |
| 秋田サービス認定店 | FAX 018-869-7401 | 〒010-0802 | 秋田市外旭川字梶の目346-1 |

### ●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 世田谷サービスステーション | FAX 03-3419-4234 | 〒155-0032 | 世田谷区代沢4-25-9 |
| 墨田サービスステーション | FAX 03-3621-7610 | 〒130-0011 | 墨田区石原4-27-9　中島ICハイツ1F |
| 城北サービスステーション | FAX 03-3550-3625 | 〒175-0083 | 板橋区徳丸4-11-4 |
| 多摩サービスステーション | FAX 042-524-5947 | 〒190-0003 | 立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F |

### ●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 新潟サービスステーション | FAX 025-241-1879 | 〒950-0913 | 新潟市鐙1-5-23 |
| 佐渡サービス指定店　横山電機商会 | FAX 0259-63-3400 | 〒952-1209 | 佐渡市金井町千種1158-1 |
| ☆千葉サービスセンター | FAX 043-207-2555 | 〒263-0014 | 千葉市稲毛区作草部町1369-1　椎の実ハイツ1F |
| 水戸サービス認定店 | FAX 029-248-1306 | 〒310-0844 | 水戸市住吉町307-4 |
| つくばサービス認定店 | FAX 0298-58-1369 | 〒305-0045 | つくば市梅園2-2-6 |
| ☆埼玉サービスセンター | FAX 048-651-8030 | 〒331-0812 | さいたま市北区宮原町1-310-1 |
| 川越サービス認定店 | FAX 049-233-6581 | 〒350-0804 | 川越市下広谷1128-11 |
| 宇都宮サービス認定店 | FAX 028-657-5882 | 〒321-0912 | 宇都宮市石井町3373-1 |
| 群馬サービス認定店 | FAX 0270-22-1859 | 〒372-0801 | 伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号 |
| ☆神奈川サービスセンター | FAX 045-943-3788 | 〒224-0037 | 横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎 |
| 横浜北サービス認定店 | FAX 045-943-3155 | 〒224-0036 | 横浜市都筑区勝田南1-19-17 |
| 厚木サービス認定店 | FAX 046-224-7724 | 〒243-0807 | 厚木市金田339-1　金田コーポフロンテア201 |
| 三宅島サービス指定店　勝見電機 | FAX 04994-6-1246 | 〒100-1211 | 三宅村大字坪田 |
| 松本サービス認定店 | FAX 0263-48-0575 | 〒390-0852 | 松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F |
| 長野サービス認定店 | FAX 026-229-5250 | 〒380-0935 | 長野市中御所1-24 |
| 甲府サービス認定店 | FAX 055-228-8003 | 〒400-0035 | 甲府市飯田4-9-14 |

### ●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| ☆名古屋サービスセンター | FAX 052-532-1148 | 〒451-0063 | 名古屋市西区押切2-8-18 |
| 岡崎サービス認定店 | FAX 0564-33-7080 | 〒444-0931 | 岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1 |
| 津サービス認定店 | FAX 059-213-6712 | 〒514-0821 | 津市垂水522-5 |
| 岐阜サービス認定店 | FAX 058-274-5256 | 〒500-8356 | 岐阜市六条江東1-1-3 |
| 静岡サービスステーション | FAX 054-237-5691 | 〒422-8034 | 静岡市駿河区高松1-6-5 |
| 沼津サービス認定店 | FAX 055-967-8455 | 〒410-0876 | 沼津市北今沢12-7 |
| 浜松サービス認定店 | FAX 053-422-1401 | 〒435-0042 | 浜松市篠ヶ瀬町415　ビラモデルナ5号 |
| 金沢サービスステーション | FAX 076-269-4758 | 〒920-0362 | 金沢市古府1丁目178 |
| 富山サービス認定店 | FAX 076-425-3027 | 〒939-8211 | 富山市二口町1-7-1 |
| 福井サービス認定店 | FAX 0776-27-1768 | 〒910-0001 | 福井市大願寺3-5-9 |

### ●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| ☆大阪サービスセンター | FAX　06-6310-9120 | 〒564-0052 | 吹田市広芝町5-8 |
| 大阪北サービス認定店 | FAX　06-6453-5666 | 〒531-0076 | 大阪市北区大淀中3-9-4 |
| 大阪南サービス認定店 | FAX　0722-75-2625 | 〒593-8322 | 堺市津久野町1-8-15　ローズマンション1F |
| 神戸サービス認定店 | FAX　078-265-0832 | 〒651-0093 | 神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F |
| 姫路サービス認定店 | FAX　0792-51-2656 | 〒671-0224 | 姫路市別所町佐土4-2 |
| 和歌山サービス認定店 | FAX　0734-46-3026 | 〒641-0021 | 和歌山市和歌浦東3-1-25 |
| 京都サービス認定店 | FAX　075-352-2588 | 〒600-8322 | 京都市下京区西洞院通五条東南角小柳町513-2　五条久保田ビル1F |
| 奈良サービス認定店 | FAX　0742-36-8713 | 〒630-8132 | 奈良市大森西町21-26 |
| 福知山サービス認定店 | FAX　0773-24-5375 | 〒620-0055 | 福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション |

### ●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| ☆広島サービスセンター | FAX　082-248-9939 | 〒730-0041 | 広島市中区小町2-30　第二有楽ビル1F |
| 岡山サービス認定店 | FAX　086-244-8748 | 〒700-0975 | 岡山市今8-15-21 |
| 松江サービス認定店 | FAX　0852-22-7779 | 〒690-0017 | 松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内 |
| 福山サービス認定店 | FAX　0849-31-2791 | 〒720-0815 | 福山市野上町3-12-9 |
| 鳥取サービス認定店 | FAX　0857-29-1290 | 〒680-0061 | 鳥取市立川町5-240-1 |
| 徳山サービス認定店 | FAX　0834-33-5759 | 〒745-0006 | 周南市花畠町3-11　森広事務所1F |
| 高松サービスステーション | FAX　087-861-4841 | 〒760-0078 | 高松市今里町1-16-1 |
| 徳島サービス認定店 | FAX　088-669-6076 | 〒770-8023 | 徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号 |
| 高知サービス認定店 | FAX　088-802-3321 | 〒780-0051 | 高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1Ｆ |
| 松山サービス認定店 | FAX　089-951-6270 | 〒791-8067 | 松山市古三津5-10-35　商船ビル1Ｆ |

### ●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

| 拠点 | FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| ☆福岡サービスセンター | FAX　092-412-7460 | 〒812-0016 | 福岡市博多区博多駅南2-12-3 |
| 北九州サービス認定店 | FAX　093-941-8354 | 〒802-0044 | 北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F |
| 博多サービス認定店 | FAX　092-461-1643 | 〒812-0006 | 福岡市博多区上牟田2-6-7 |
| 長崎サービス認定店 | FAX　095-849-4606 | 〒852-8145 | 長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野 |
| 熊本サービス認定店 | FAX　096-331-3323 | 〒862-0918 | 熊本市花立5丁目14-17 |
| 大分サービス認定店 | FAX　097-549-2420 | 〒870-0851 | 大分市大石町5丁目1-1 |
| 鹿児島サービスステーション | FAX　099-224-7692 | 〒892-0841 | 鹿児島市照国町3-21　第二大見ビル2Ｆ |
| 宮崎サービス認定店 | FAX　0985-27-3136 | 〒880-0821 | 宮崎市浮城町98-1 |

### ●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

| 拠点 | TEL/FAX | 〒 | 住所 |
|---|---|---|---|
| 沖縄サービスステーション | TEL　098-879-1910<br>FAX　098-879-1352 | 〒901-2122 | 浦添市勢理客4-18-1　トヨタマイカーセンター3Ｆ |

平成18年 4月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

9
その他

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するかまたは、電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

**連絡先）カスタマーサポートセンター：0070-800-8181-22**

*http://www.pioneer.co.jp/support/*

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

## ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

### 商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

#### カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

●家庭用オーディオ/ビジュアル商品　■0070－800－8181－22　■一般電話　03－5496－2986

■ファックス　03－3490－5718

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/index.html
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

## 修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

### 修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

#### 修理受付センター

受付時間　月曜～金曜9:30～19:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81028（ゴーハパイオニア）　■一般電話　03－5496－2023

■ファックス　0120－5－81029

■インターネットホームページ　http://www.pioneer.co.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

#### 沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098－879－1910

■ファックス　098－879－1352

### 部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

#### 部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜・日曜・祝日9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81095　■一般電話　0538－43－1161

■ファックス　0120－5－81096

平成18年4月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.017



パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<ARA7233-A>